

親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ 2010

親しまれる港づくりの推進事業

報告書 (概要版)



四日市旧港まち歩きマップ

まち歩きモデルコース
4 みなと公園発 末広橋梁・倉庫群コース [2.8km]

歴史的資源	★潮吹防波堤 (E-3)	★稲葉翁銅像 (E-2)	★稲葉翁記念公園 (E-1)
★思案橋跡 (E-2)	相生橋 (D-2)	潮吹防波堤 (E-3)	潮吹防波堤 (E-3)
★不動寺 (E-2)	千歳橋 (D-3)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)
★不動寺山門 (E-2)	不動寺山門 (E-2)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)
★不動寺山門 (E-2)	千歳橋 (D-3)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)
★思案橋跡 (E-2)	千歳橋 (D-3)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)
★不動寺 (E-2)	千歳橋 (D-3)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)
★思案橋跡 (E-2)	千歳橋 (D-3)	相生橋 (D-2)	相生橋 (D-2)



2011年3月

四日市港管理組合・三重大学都市計画研究室

ごあいさつ

四日市港は、明治初期に先覚者稲葉三右衛門が私財を投じて築港工事に着手してその基礎を築き、明治32年（1899）に開港場として指定されました。以来、主に羊毛、綿花の輸入港として栄え、現在では中部圏における代表的な国際貿易港として背後圏の主要産業を支えるとともに、わが国有数の石油化学コンビナート等を擁するエネルギー供給基地として重要な役割を担っています。

四日市港発祥の地である四日市地区は、国道23号やJR関西線で港と市街地が分断されていることや、工業港的色彩が強いことなどから県民・市民にとって近寄りづらい存在であること、また、港湾荷役が労働集約型から機械集約型に変化した結果、港で働く人などが減少するとともに、物流の拠点がコンテナ貨物を中心に霞ヶ浦地区へ移行したこともあって、以前のような活気がなくなってきました。

さらに、四日市地区には、潮吹き防波堤や末広橋梁といった歴史的資源や、千歳運河周辺の倉庫群などのレトロな景観など、数多くの地域資源が存在しますが、県民・市民の皆様にあまり知られていないことや、これらの資源が広い地域に点在していることもあって、有効に活用されていないといった課題もあります。

こうした課題の解消や、四日市港の地域資源の活用について、県民・市民はじめ、地元自治会、NPO、港に関係する団体、商工団体、企業、四日市市など多様な主体に参加していただき、三重大学との共同研究として、旧港周辺の親しまれる港づくりを進めるワークショップを平成21年度に開催しました。その結果、参加者の皆様から100に及ぶアイデアを提案していただきました。

また、22年度には、点在する地域資源を線でつないだ散策ルートを掲載したガイドマップを作成し、アイデアの社会実験として開催したイベント「秋のみなとフェスタ2010」で活用していただいたところです。

2カ年のワークショップの参加延べ人数は300余人に達し、「秋のみなとフェスタ2010」の開催などを通じて旧港周辺が県民・市民の皆様から身近に感じていただける契機となったと思っています。

今後とも、四日市港が県民・市民の皆様に一層親しまれる港になるよう、多くの関係者の方々と連携・協働、役割分担をし、ご提案いただいたアイデアを活用しながら、親しまれる港づくりを進めていきたいと考えています。

最後に、共同研究で大変お世話になった三重大学大学院工学研究科の松浦健治郎先生はじめ、研究室の皆様、ワークショップにご参加いただいた皆様、さらにフェスタに協賛をいただいた企業、並びに関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

2010年3月

四日市港管理組合・副管理者 石垣英一

はじめに

本報告書は昨年度に引き続き行った、四日市港管理組合と三重大学都市計画研究室との共同研究である「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ～親しまれる港づくりの推進事業」の成果を取りまとめたものである。

昨年度の共同研究では、親しまれる四日市港づくりの100のアイデアを取りまとめたわけだが、今年度はそのアイデアの中ですぐに実現可能であり効果があると考えられる22のアイデアを実現化するために、大きく3つのプロジェクトを立ち上げた。

第1に、まち歩きマップの制作プロジェクトである。まちの資源を再発見し、それらを広く市民に情報発信するための手段として「まち歩きマップ」に注目した。5回のワークショップを開催し、昨年度のワークショップ参加者を中心とした多くの参加者の協力を得て、まち歩きマップを制作することができた。

第2に、いくつかのアイデアを実験的に実施するためのイベントプロジェクトである。秋の四日市祭と同日に「秋のみなとフェスタ 2010～四日市旧港再発見」というイベントを開催した。このイベントでは、アイデアの一部であるガイドツアーやウォークラリー、船の見学会などを企画し、多くの人々に四日市港を再発見してもらうことを狙いとした。イベントの企画・実施体制として、四日市港に関わる各種組織の代表者による四日市港まち歩き実行委員会を組織し、イベントの内容を協議した。当日は天候に恵まれなかったものの、約1200名の参加者があった。また、イベントスタッフとしてガイドボランティアなど多くの市民の協力を得ることが出来た。

第3に、活動内容をPRするためのホームページ制作・管理プロジェクトである。三重大学都市計画研究室が中心となってホームページを制作・管理し、ワークショップの結果や秋のみなとフェスタ 2010などの情報を適宜、更新している。

このようにして、いくつかのまちづくりの種をまくことができた。それぞれの種が芽を出し、葉が生い茂り、花を咲かせるためにはもう少し時間がかかるだろう。大切なことは、これらのまちづくりの取り組みを多主体連携により継続的に進めていくことである。

最後に、本ワークショップに参加して頂いた四日市市民の皆さんをはじめとして、本ワークショップに関わった全ての皆さんに心から御礼を申し上げたい。

2011年3月

三重大学大学院工学研究科建築学専攻・助教 松浦健治郎

【調査研究組織】

四日市港管理組合

振興課： 村上 孝夫
 角屋 賢一
 佐藤 三重
 水谷 留尉
 吉岡 千佳
 国保 映真
経営企画課：木谷 美和
管理課： 竹内 重夫
整備課： 落合 正高
 内田 順己

三重大学大学院工学研究科建築学専攻都市計画研究室

総括 松浦 健治郎 三重大学大学院工学研究科建築学専攻・助教
飛田 裕彰 三重大学大学院工学研究科建築学専攻・博士前期課程1年
松田 浩紀 同上
小野 晋平 三重大学大学院工学研究科建築学専攻・博士前期課程2年
鈴木 悠平 同上

【報告書作成】

全体構成・全体編集：松浦 健治郎
3（3）参加者アンケート調査結果の概要：飛田 裕彰・松田 浩紀
3（4）秋のみなとフェスタ2010の検証：四日市港管理組合振興課・松浦 健治郎

【まち歩きマップ製作】

全体構成 ：松浦 健治郎
全体編集 ：松浦 健治郎・飛田 裕彰・松田 浩紀

【付録 DVD 製作】

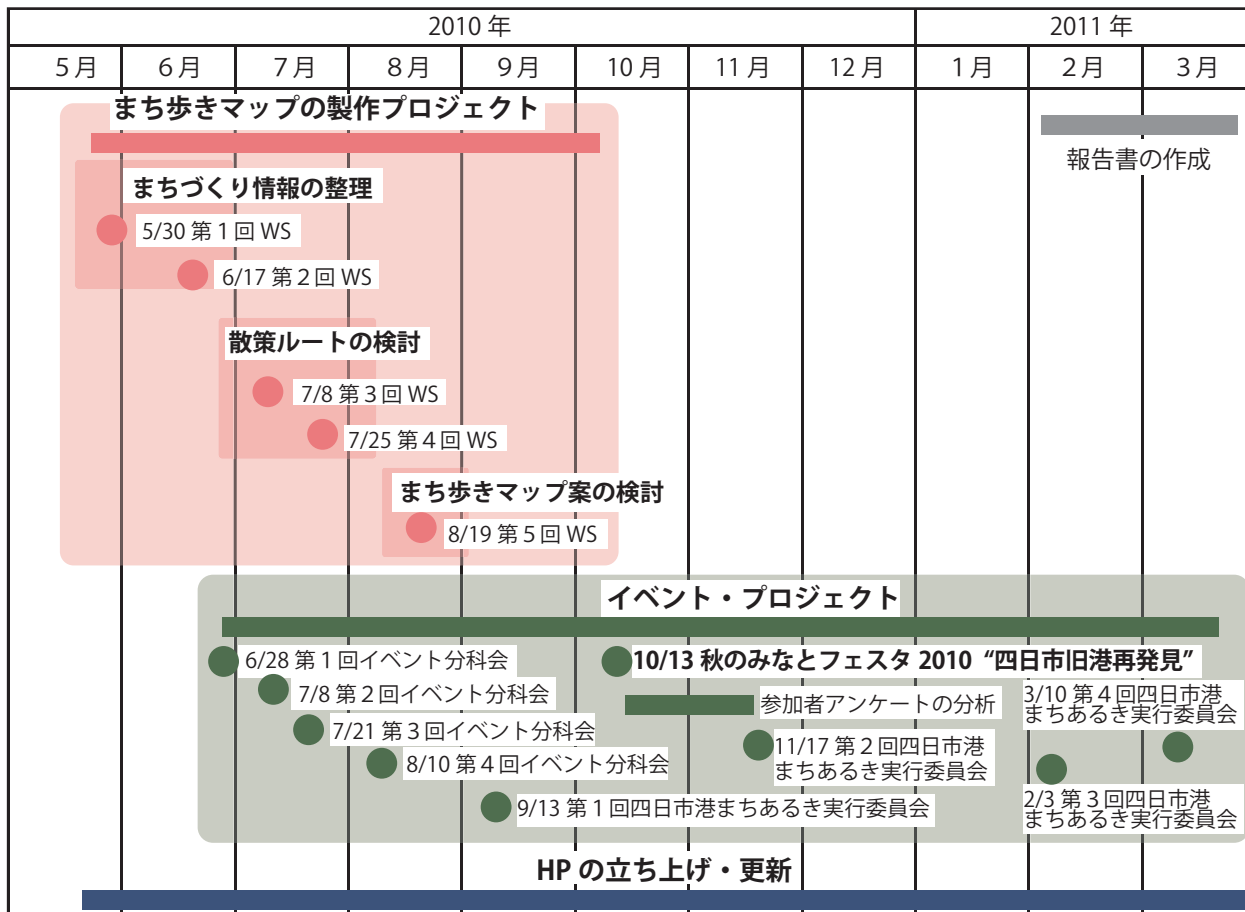
DVD 製作 ：松浦 健治郎

目次

1. 活動経過の概要	6
2. まち歩きマップ製作のためのワークショップ	6
(1) 第1回市民ワークショップ.....	7
(2) 第2回市民ワークショップ.....	12
(3) 第3回市民ワークショップ.....	16
(4) 第4回市民ワークショップ.....	21
(5) 第5回ワークショップ.....	25
(6) まち歩きマップの製作.....	29
(7) ワークショップ参加者の属性.....	31
(8) 四日市港ワークショップに関する新聞記事・TV報道.....	31
3. 秋のみなとフェスタ 2010 の開催	33
(1) 組織構成と分科会・委員会での検討内容.....	33
(2) 秋のみなとフェスタ2010の概要.....	40
(3) 参加者アンケート調査結果の概要.....	42
(4) 秋のみなとフェスタ2010の検証.....	45
4. ホームページの制作・管理	48

1. 活動経過の概要

本年度の活動内容は大きく3つに分かれる。第1に、まち歩きマップの製作プロジェクトである。昨年度と同様に5回のワークショップでまち歩きマップの内容を検討した。第2に、昨年度提案された100のアイデアカードの一部を社会実験的に実践するイベントプロジェクトである。ワークショップでは別に、イベント分科会・まちあるき実行委員会を立ち上げ、イベントの具体的な内容、役割分担等を議論した。第3に、活動の内容を情報発信するためのホームページ製作・管理プロジェクトである。これについては、三重大学都市計画研究室が担当した。以下に、各活動内容の概要を整理する。



2. まち歩きマップ製作のためのワークショップ

第1回ワークショップでは、四日市港地区のまち歩きにより、地域資源を確認した。第2回ワークショップでは、四日市港地区のまちづくりの歴史の整理、散策マップに掲載する情報についての意見交換を行った。第3回ワークショップでは、4つの起点・終点から始まる散策ルートを検討した。第4回ワークショップでは、なやプラザを起点とする散策ルートについて、実際に歩いた上で、修正意見を検討した。第5回ワークショップでは、これまでの検討結果を踏まえて散策マップ案が発表され、散策マップ案に対する修正意見を検討した。

(1) 第1回ワークショップ

日時：5月30日（日） 13:00～16:00

場所：なやプラザ、四日市港地区（まち歩き）

参加者数：34名

ワークショップの概要：2009年度の成果発表の後、今年度のワークショップのガイダンスを行った。次に、4つのグループに分かれて、四日市港地区の地域資源確認のために散策会を実施した。最後に、散策結果のまとめと散策マップに入れる情報に関するアイデア出しを行った。最後に全体発表があった。

第1回ワークショップの風景写真



まち歩きの結果(北東Aコース班)

<各所の説明>

- ・不動寺の松がどこにあったかの説明が欲しい
- ・音声で説明するような場所があったらいい
- ・稲葉三右衛門の旧家の説明や案内が欲しい
- ・潮呼橋跡に案内や説明が無い
- ・思案橋のどれが史跡なのかマップに示す

<商店街>

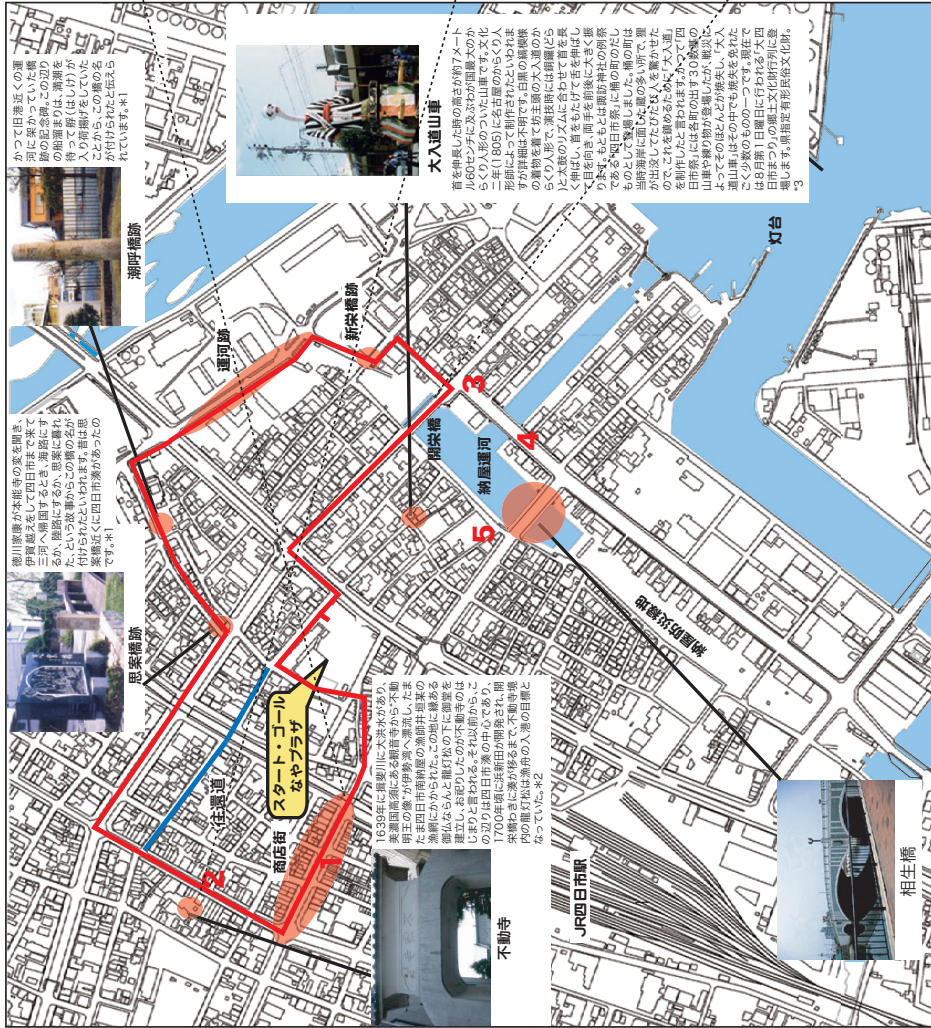
- ・薄皮まんじゅうや永餅等お菓子の有名なお店が数件ある
- ・本町プラザに昔の写真や山車の展示してある
- ・アーケードの天井には東海道五十三次の絵が複製架けられている

<散策ルート>

- ・往還道は是非通ってほしい
- ・思案橋、不動寺、稲葉三右衛門の旧家

<散策マップのアイデア>

- ・各名所の昔と現在を比較した説明(不動寺の松がどの辺りにあったか)等が欲しい
- ・現在の観光案内所の場所がわかりづらいので明記した方がいい
- ・その場に説明の無い名所もあるので、マップに載せた方がいい
- ・お店の情報を載せる際には、商品の割引券を付けたらいい
- ・未だ橋梁が何時に上がるかタイムスケジュールを載せる
- ・車いすでも安全かどうかの表示



徳川慶康が本陣の森を開き、伊賀忍を率いて四日市まで来て、大敗した。敗走する中、稲葉三右衛門が、稲葉三右衛門の旧家の説明や案内が欲しい

かつて日海近くの運河に架かっていた橋の跡が、現在も残っている。稲葉三右衛門の旧家の説明や案内が欲しい

大入道山車
京都府長久保の高山が、大入道山車(1805)に老古蔵といわれ、文化財として保存されている。大入道山車は、大入道山車(1805)に老古蔵といわれ、文化財として保存されている。

1638年に長慶川に大水がながり、不動寺の境内に稲葉三右衛門の旧家が建てられた。この地に稲葉三右衛門の旧家が建てられた。この地に稲葉三右衛門の旧家が建てられた。

1700年頃に築かれた稲葉三右衛門の旧家。稲葉三右衛門の旧家は、稲葉三右衛門の旧家である。

本町通り

大正11年、伊勢鉄道乗り入れで西駅舎が完成し、商店街はますます栄えた。



現在の本町通り商店街
・アーケードがかなり、道幅が広がっている。
・アーケードには五十三次の絵の看板がかけてられている。



不動寺山門と竜灯松

昔はこの松の下まで入り江だった。竜の形をした松に灯明をつけて、灯台代わりにしたともいう。



現在の不動寺山門
・昔の山門の面影は、現在残っていない。
・竜灯松も現在残っていない。



開米橋

橋を渡った左手には四日市郵便局があり、半鐘の跡には浜往還の松が見える。橋のたもと右手は四日市倉庫(株)。その奥の洋館は四日市銀行と倉庫や事務所が建ち並んでいた。



現在の開米橋
・橋の幅が広くなっている。
・松や洋館は現在無くなっている。



約2.7km
0 100m 200m 500m
*1 出典:国土交通省中部地方整備局(四日市港事務所) http://www.pu.cbmr.it.gsjp/YOKKAICHI/0_yo_library/guide.html
*2 出典: 田原市の歴史を大観5 http://happytown.orinoo.com/p1nptogo/view/?v_agne_view.php?UserID=334646¢er=6¢erID=671164
*3 出典: 田原市HP <http://www.city.yokkaichi.mie.jp/bunkazai/pages/data/32.html>

まち歩きの結果(北東Bコース班)

- <散策>**

 - ・1時間で約2.4kmを歩くのは難しい
 - ・本コースのみで考えるよりパンクトに付ける途中で屋内に入れる何か仕掛けがあると良い。
- <景観>**

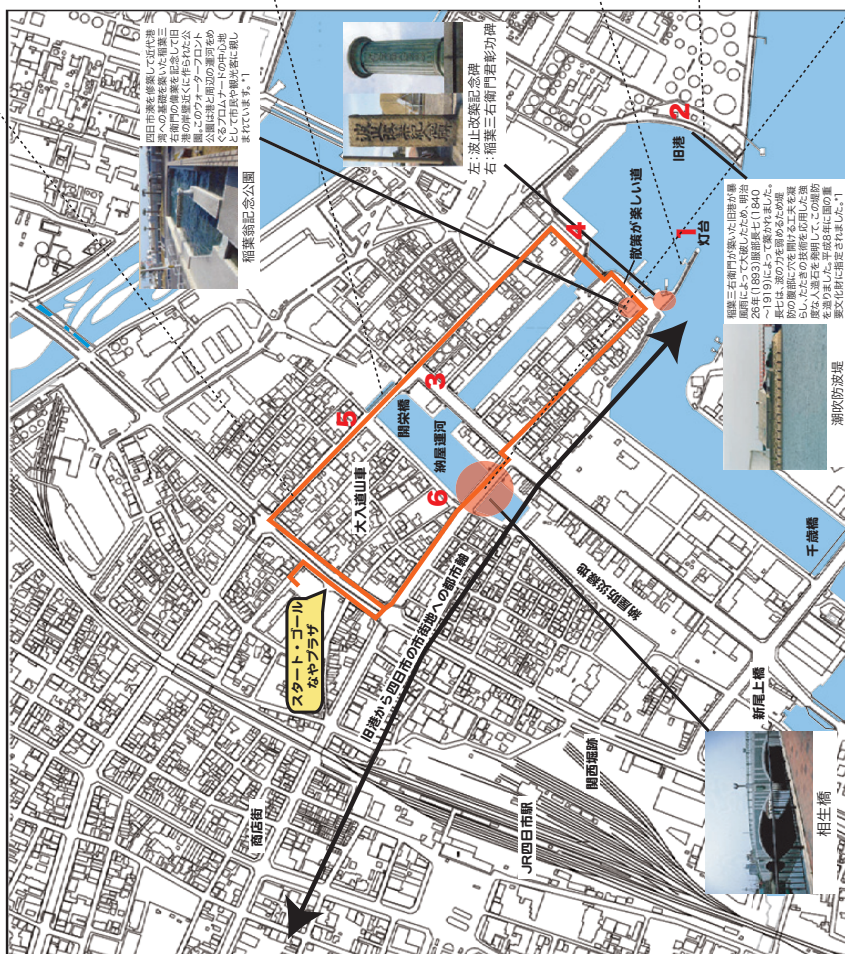
 - ・歩いていざやとされる景観でない
 - ・緑が少ないため、無趣な感じを受ける
 - ・散策が楽しい道と名乗れる景観に配慮し、工夫が必要(町並みの統一した整備・修復)
- <案内>**

 - ・三浦通りから旧港への誘導サイン(看板、路面舗装)
 - ・JR四日市駅からの誘導
 - ・歴史的背景の内容を盛り込んだ看板の設置
 - ・初めて訪れる人にも分かる案内板の整備
 - ・声による案内テープの設置
- <潮吹防波堤>**

 - ・潮吹防波堤は数少ないもので、大いに宣伝できたらしいのに
 - ・潮吹防波堤までもっと近づけたら良いと思う
 - ・文化財に指定された潮吹防波堤を近鉄四日市駅やJR四日市駅から招く必要がある。
- <散策マップのアイデア>**

 - ・様々な出発点の設定
 - ・およその時間、距離の明記
 - ・老若男女誰でも読みやすい字の大きさに配慮する
 - ・子供も大人も楽しめるマップ
 - ・歴史的背景と現在のマップのレイヤーを分ける
 - ・現在のマップは、マップのポイントと資源内容の説明が離れているので読みづらい
 - ・写真やイラストを用いて見所の説明を付ける
 - ・コース上で昼間と夜間で変化するビューポイントを示す
 - ・食事、トイレ、休憩所、駐車場の明記
- <その他>**

 - ・稲葉翁居防洲の農上邸にキャブスタンを復活して!
 - ・歩こう会などのボランティア組織も巻き込んで他市への発信
 - ・花街の面影を残す高砂町の家屋を残していく



Bコース 約2.4km

※1.出典:国土交通省中部地方整備局四日市港事務所HP
http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/YOKKACHI/01_01_library/guide.html

<p>5</p> <p>◀開町通り</p> <p>九尾肥料店の倉庫と、向こうの洋館は四日市旅行の定番。</p> <p>現在の開町通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は倉庫群は見られない ・倉の面影を残す建物があった ・道が整備されている 	<p>3</p> <p>◀開栄橋</p> <p>橋を渡った左手には四日市郵便局があり、半端の面には兵衛屋の松の丸がある。右の面にも古くは四日市倉庫(株)の倉庫の面は四日市旅行の定番で、事務所が建ち並んでいた。</p> <p>現在の開栄橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松はなくなっている ・面影は残っているが道幅が広がっている 	<p>4</p> <p>◀四日市灯台</p> <p>明治19年に建てられた四日市灯台の外観を詳しく知ることが出来る。また、堤防が高く築かれていたこともよくわかる写真である。</p> <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯台の面影はない ・周辺には、記念碑や記念公園がある 	<p>2</p> <p>◀潮吹防波堤</p> <p>「潮吹防波堤」を(明治27年竣工)を、機断する形で写したもので、潮吹防波堤のしくみがよくわかる。</p> <p>現在の潮吹防波堤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮吹防波堤の南側は埋め立てられている ・防波堤としての機能は現在も果たしていない 	<p>6</p> <p>◀相生橋</p> <p>袋町と高砂町を結ぶ河津川上流で、この橋は、高砂町が明治22年11月に築かれた。木橋時代。</p> <p>現在の相生橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は木橋の老朽化に伴い整備されている ・アーチ状の橋となっている
--	--	--	---	--

まち歩きの結果(南Cコース班)

散策マップのアイデア

- ・四日市港で生まれる製品の製品情報を載せる
- ・土日は車が少ない、イベントに良い
- ・地図と共に説明してくれる人が一緒に歩くイベントがあると良い
- ・末広橋梁を渡る列車の時刻を載せ、末広橋梁の動く姿を見られるようにする
- ・観光協会の電話番号など観光に役立つ情報を載せる
- ・臨海駅からアピールする
- 昼夜の風景
- 船の遊覧、船上でのパワーマンズ
- 旧管理組合庁舎からの眺望

新しい発見

- ・千歳川の西側のルートが散策向き
- ・多数の防潮扉で千歳町を防護している
- ・防潮扉建設経緯の発見 昭和36年とあった(伊勢湾台風は昭和34年)

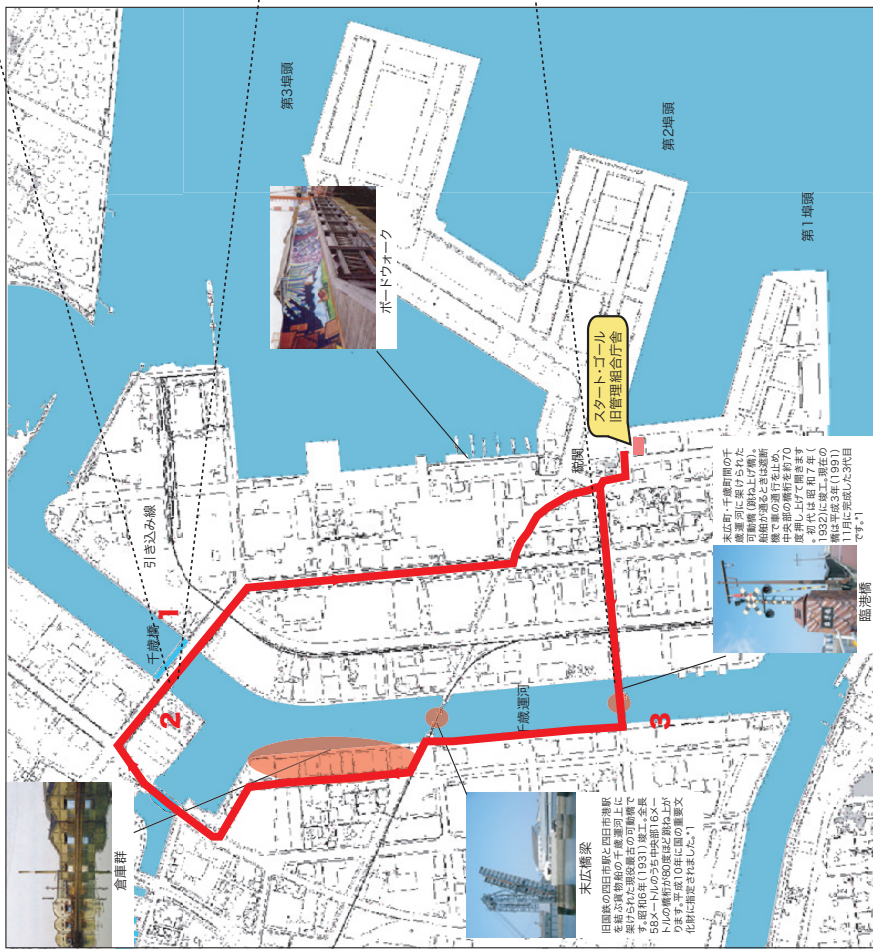
休日と土日の差

- ・休日だったので静かだった
- ・休日であったため閑散として一人歩きは不安がある
- ・本日歩いたところていくつも見所はあるものの企業の仕事場であるというイメージから一般の人が散策するには抵抗がある。平日はトラックが多く危険

観光のための環境整備

- ・歩道がなく危険な箇所があった
- ・ベンチや花を植えて明るい雰囲気にして欲しい
- ・場所によっては歩道がなく危険
- ・トイレや休憩できる場所があれば散策しやすい
- ・歴史的遺産にもっと説明看板が欲しい
- ・末広橋梁など閉鎖する場面がみたい
- ・休憩場所が分かるようにする
- ・末広橋梁のある岸壁側にフェンスがなく危険である
- ・石積みの物置場を有効活用して欲しい

 <p>千歳橋 尾上町と千歳町(二号地)を結ぶ千歳橋の完成は、大正15年である。</p>	<p>現在の千歳橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋脚の本数が少なくなっている ・オブジェがなくなっている
 <p>千歳橋と四日市博覧会正門 国際線四日市市大博覧会は、四日市港の第二期修築工事完成の記念として第二号地にて昭和11年3月2日から5月13日まで開催された。入場者は120万人を数えた。</p>	<p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナビリオンがあったと思われる場所は倉庫になっている ・当時の面影を感じる所はない
 <p>臨港橋と末広橋梁 初代臨港橋は、昭和7年に完成した。末広橋梁は現在まで最古の鉄道可動橋として平成10年12月20日に国の重要文化財に指定された。</p>	<p>現在の臨港橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の臨港橋は3代目 ・船が運るときに開く ・開くときに遮断機が降りる
 <p>現在の末広橋梁</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和6年から現在まで現役 ・電車が通るときに橋が降りる 	



まち歩きの結果(自転車班)

- <自転車散策>**
- ・自転車でも意外に時間がかかる
 - ・集団での自転車走行はややや危険なところもあり
 - ・散策に自転車を行き交するなら交通マナーの徹底を!
 - ・自転車で廻るにあたり自転車の整備が求められる

- <名所の説明をわかりやすい場所に>**
- ・像の説明をわかりやすい位置にした方がよい
 - ・稲草像の説明書きが像の裏側にあることに気づかない
 - ・湖呼吸橋跡の入り口は知らないと感じた
 - ・不動寺・石像等について、ひとつひとつの説明が欲しい
 - ・開栄橋・相生橋・新栄橋の案内看板が欲しい
 - ・開栄橋・相生橋・新栄橋はむかし運河にかかっていた橋だったが、その説明がない
 - ・納屋アラザのある蔵町はそのほか、倉庫街だったと聞く。その説明も欲しい

- <散策全般>**
- ・夜に名所がはつきり分かるとか分かるようにライトアップをトイシの休憩場所はあるか?
 - ・旧津エリア 電エリアとも潮水空間を指すのか、長期構想の位置づけを含め整理を
 - ・同様のイベントが企画される恐れあり
 - ・何時もなげなく通っていた所に歴史があった
 - ・高砂町に6~7軒の古い建物があるが保存の策はなされていない

- <散策マップのアイデア>**
- ・散策マップは自転車でも携帯しやすいサイズにしたい
 - ・マップに旧運河の位置を点線で書き加えるとイメージが膨らむのでは?
 - ・散策マップを作るなら、運動して各施設の解説板の整備ができるよとい(各管理者との調整の上)
 - ・マップで紹介するスポットがどこか現地で見ると異なる説明板があってもよい
 - ・ルート上に日常生活廃棄物が散見された。日常生活と観光資源にしたいという意識の違いが分かる
 - ・港では、休日と平日で使われ方が異なる。休日と平日で入れる場所等の情報を散策マップに掲載してはどうか?
 - ・地域住民への配慮が必要。住宅ゾーンと観光ゾーンを分けて、住宅ゾーンに観光客が入らないように散策マップで工夫してはどうか?
 - ・所用時間の目安がマップで分かるように

◆本町通の
大正11年、伊勢鉄道運車が入れて西駅舎が完成し、商店街はまよまよ来た。

◆現在の本町通り商店街
アーケードがかかり、連福が広がっている。
ジャクサーが下りている店が目につく

◆開栄橋
橋を運った左手には四日市郵便局があり、半橋の脇には往時の船が息える。橋のほと右手は四日市倉庫(株)、その奥の洋館は四日市銀行と倉庫や事務所が連ち並んでいる。

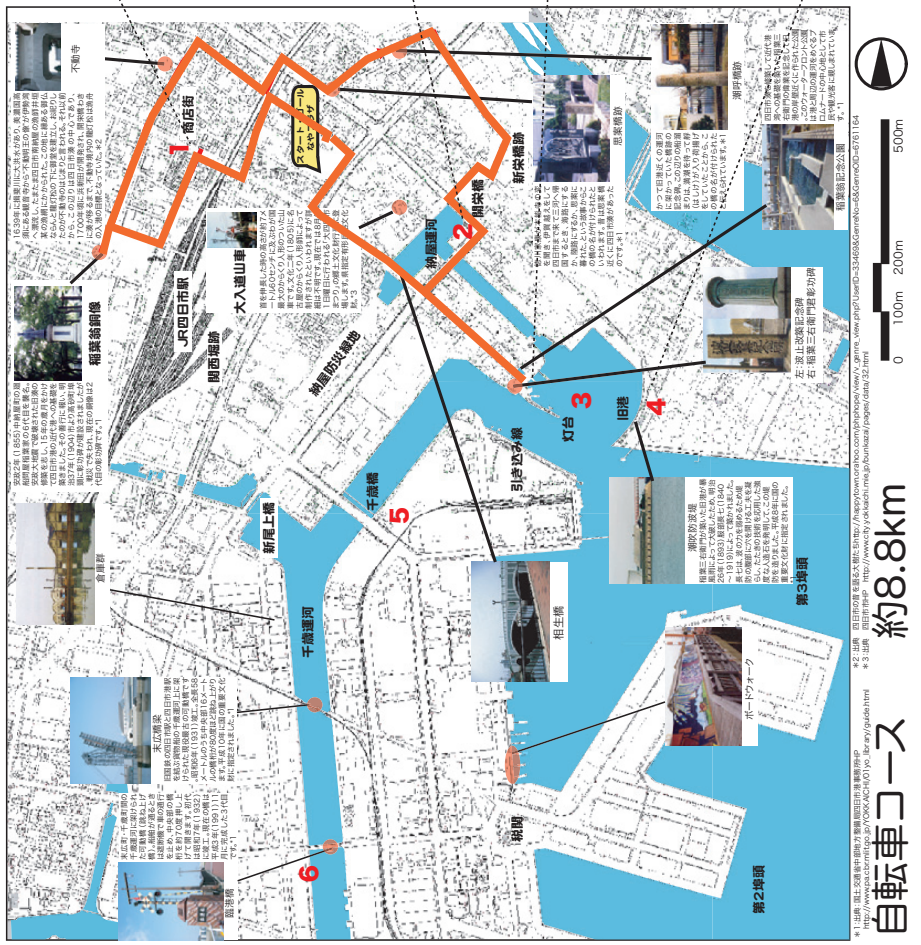
◆現在の開栄橋
・橋の幅が広がっている。
・私や洋館は現在なくなっている。

◆四日市灯台
明治19年に置かれた四日市灯台の外観を詳しく高く書くことができる。また、建物が高く写っていたこともよくわかる写真がある。

◆現在の状況
・灯台がなくなっている。
・稲葉三右衛門君影功碑や波止改築記念碑が置かれている

◆潮吹防波堤
「潮吹防波堤」を(明治27年竣工を、断続する形で写したもので、潮吹防波堤のしくみがよくわかる。

◆現在の潮吹防波堤
・防波堤の南側が埋め立てられ、防波堤の機能を持たなくなつた。
・防波堤の近くに行くことは不可能。



約8.8km
自転車コース

<潮吹防波堤付近>

- ・防波堤のミニチュアがよくできているが、あまり知られていない
- ・潮吹防波堤を見る場所が危険
- ・旧港の橋の保存処置がされていないため危険な状況にある。観光コースにするのであれば要修理。

(2) 第2回ワークショップ

日時：6月17日（木） 19:00～21:00

場所：なやプラザ

参加者数：32名

ワークショップの概要：始めに本ワークショップに関する新聞記事やテレビ報道の紹介を行った。次に、第1回ワークショップの結果の発表と四日市港地区のまちづくりの歴史の変遷、四日市港地区の写真の昔と現在、昨年度と第1回ワークショップの結果を踏まえた四日市港地区の資源マップの発表があった。次に、散策マップに掲載する情報についての意見交換を行った。最後に全体発表があった。

第2回ワークショップの風景写真



A 班 検討結果

歴史を売りにする

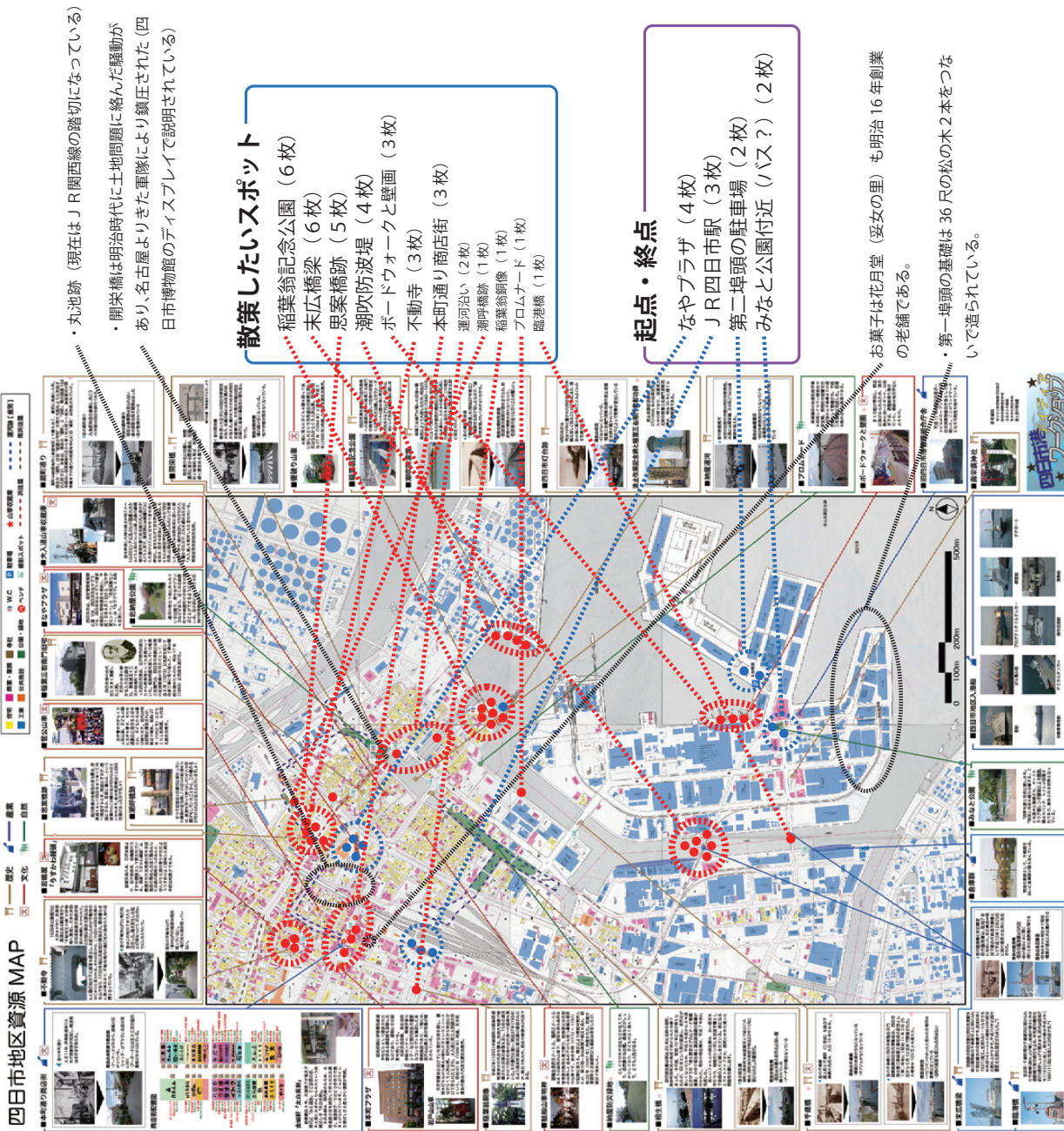
- ・みなとの歴史を全面に押し出したらどうか？
- ・3つの歴史（江戸時代の湊町期、明治期の稲葉三右衛門による開港期、大正期以降の埋め立て期）毎に現在の土地利用等の性格が異なっている。これらの3つの歴史が感じられるようなマップにできないか？

歴史だけでは人は来ない

- ・歴史に興味を持っている人はかりではない。
- ・住む快適さ、働く快適さ、憩う快適さの3つが重要
- ・散策しながら立ち寄りやすいお店が散策ルート沿いに点在しているかと案じたいのでは？
- ・四日市祭り（10月の第一日曜日）と大四日市祭り（市制記念日の8月1日から、四日市港開港記念日の8月4日まで）の2つの祭り絡めて考えてはどうか？
- ・出来る範囲で休憩できる場所（飲食できる場所）が欲しい。

その他の意見

- ・アクセスが不便
- ・テーマの設定が重要。
- ・21世紀伊勢湾の構想のその後の進展はどうなっているのだろうか？（例えば四日市港のサイエンスシティ構想はどうなった？）



B 班 検討結果

本町商店街

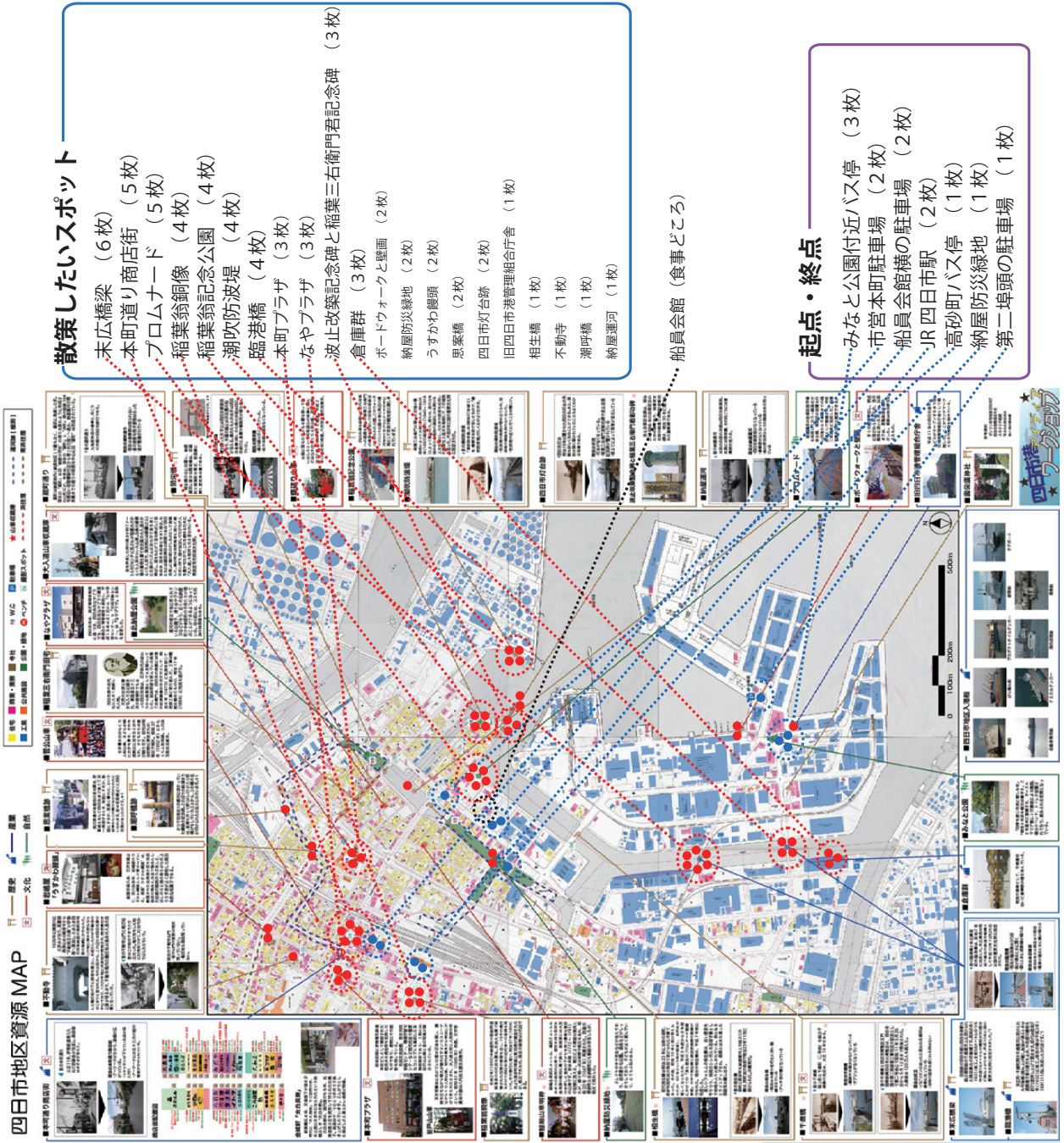
- ・ほんぼこスタンプといった商店街のスタンプカードがある。
- ・商店街のお店をルートに盛り込むことで、商店街での買い物促す。
- ・本町商店街から入れる細い路地に、三和商店街という雰囲気（赤ちょうちん的）のある商店街がある。

新たな資源

- ・船員会館という食事どころがある。
- ・総合会館

その他の意見

- ・それぞれのスポットを散策ルートで繋ぐには点在しすぎているのでは？
- ・稲葉翁記念公園の近くで水遊びができるように整備するとおもしろい。
- ・納屋防災緑地をイベントの時だけ駐車場として開放できたらいい。



散策したいスポット

- 未広橋梁 (6枚)
- 本町道り商店街 (5枚)
- プロムナード (5枚)
- 稲葉翁銅像 (4枚)
- 稲葉翁記念公園 (4枚)
- 潮吹防波堤 (4枚)
- 臨港橋 (4枚)
- 本町プラザ (3枚)
- なやプラザ (3枚)
- 波止改築記念碑と稲葉三右衛門君記念碑 (3枚)
- 倉庫群 (3枚)
- ボードウォークと壁画 (2枚)
- 納屋防災緑地 (2枚)
- うすかわ饅頭 (2枚)
- 思案橋 (2枚)
- 四日市灯台跡 (2枚)
- 旧四日市港管理組合庁舎 (1枚)
- 相生橋 (1枚)
- 不動寺 (1枚)
- 潮呼橋 (1枚)
- 納屋運河 (1枚)

船員会館 (食事どころ)

起点・終点

- みなと公園付近バス停 (3枚)
- 市営本町駐車場 (2枚)
- 船員会館横の駐車場 (2枚)
- JR 四日市駅 (2枚)
- 高砂町バス停 (1枚)
- 納屋防災緑地 (1枚)
- 第二埠頭の駐車場 (1枚)

C 班検討結果

昼の顔と夜の顔

- 工場群、倉庫群、船の停泊所や相生橋などは夜になると雰囲気が変わる。
- 夜景スポットとしてデートコースになり得る。
- ポイントビルから眺める夜景。
- 昼と夜のビューポイント、散策コースを設定してはどうか？

五感で感じられる資源

- 海岸沿いから聴く波の音…「聴覚」
- 老舗の味…「味覚」
- 港の潮、九鬼産業から香るごま油…「嗅覚」
- 四日市港の風景（倉庫群、末広橋梁、街並…「視覚」
- 「触覚」

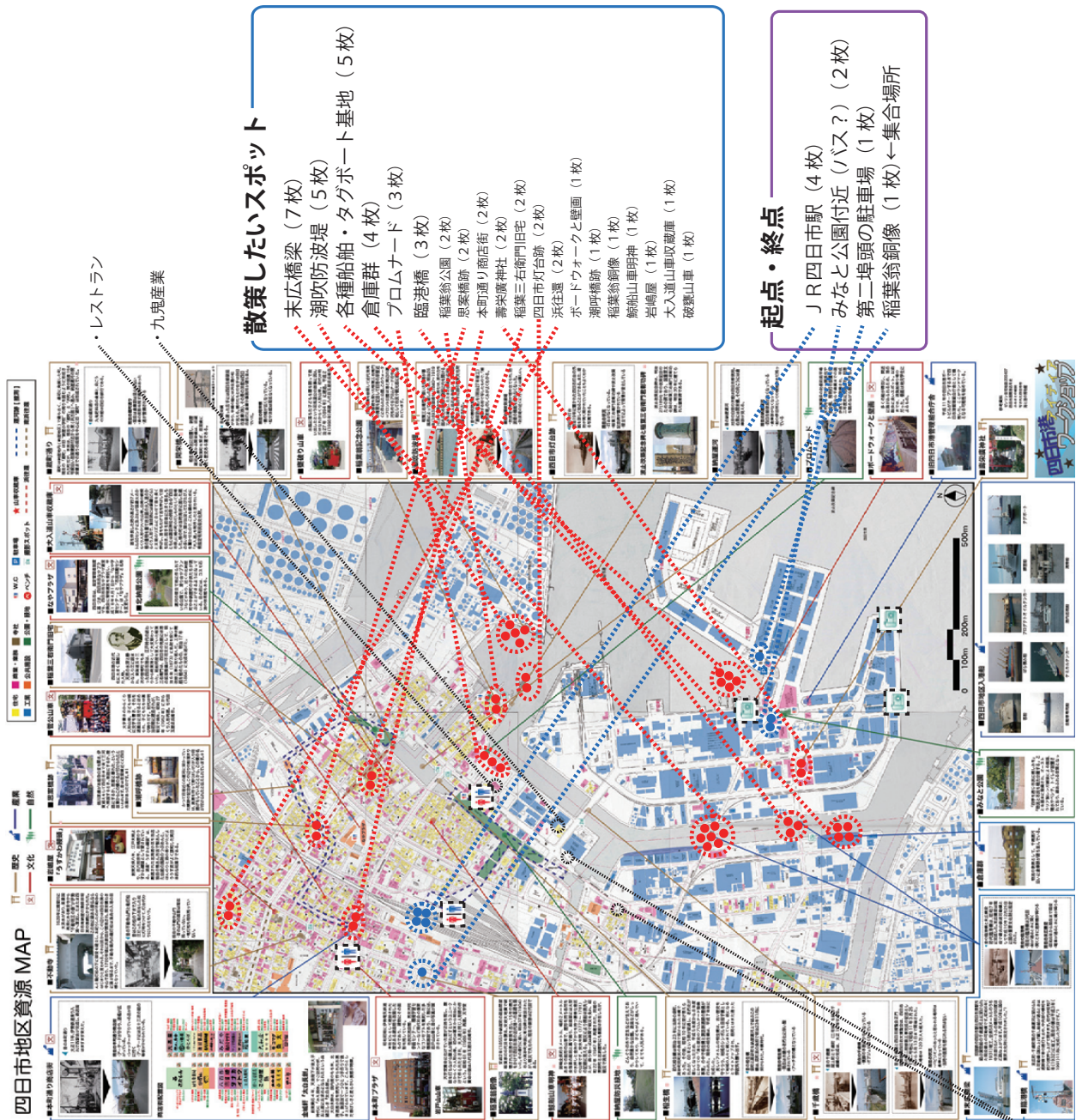
歴史・風景を魅せる

- 奥深い資源（歴史がある）こそもっとPRすべき。
- 昔の風景や資源を思い出せるようなMAP。
- 潮吹防波堤のレブリカだけでなく、実際に近づいて潮吹防波堤を見るようなイベントがあると良い。
- 荷役をしている風景が見れると良い
- 橋の上を電車が通る風景を見たい

その他の意見

- 本町通り商店街だけでなく周辺の商店街にも目を向けて取り上げるべき。→何か基準が必要
- 資源マップ上の本町通り商店街の配置図は数年前のもので、数店舗は閉店している。
- 四日市地区内の各バス停もスタート地点になり得る。

・コンビニエンスストア



(3) 第3回ワークショップ

日時：7月8日（木） 19:00～21:00

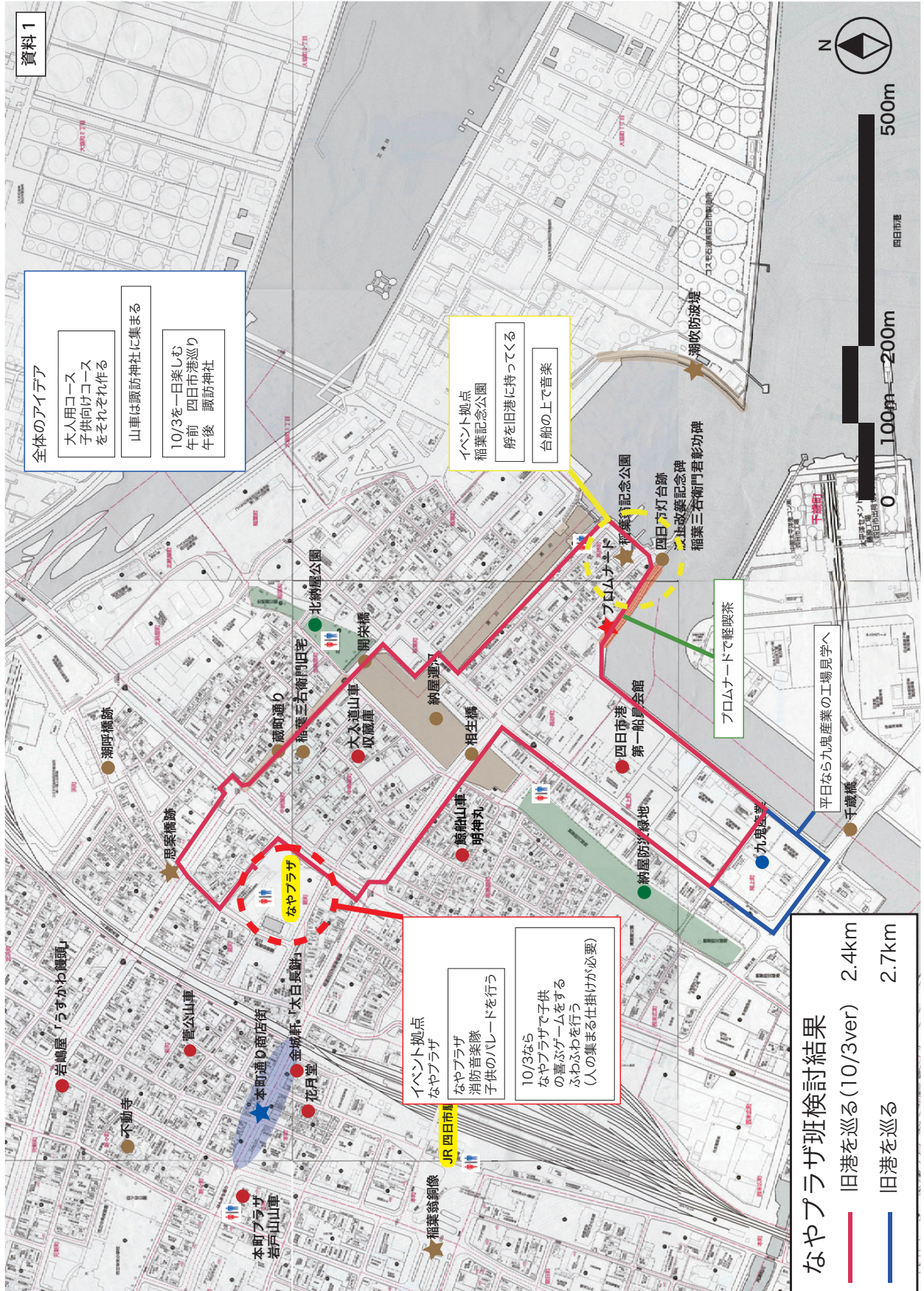
場所：なやプラザ

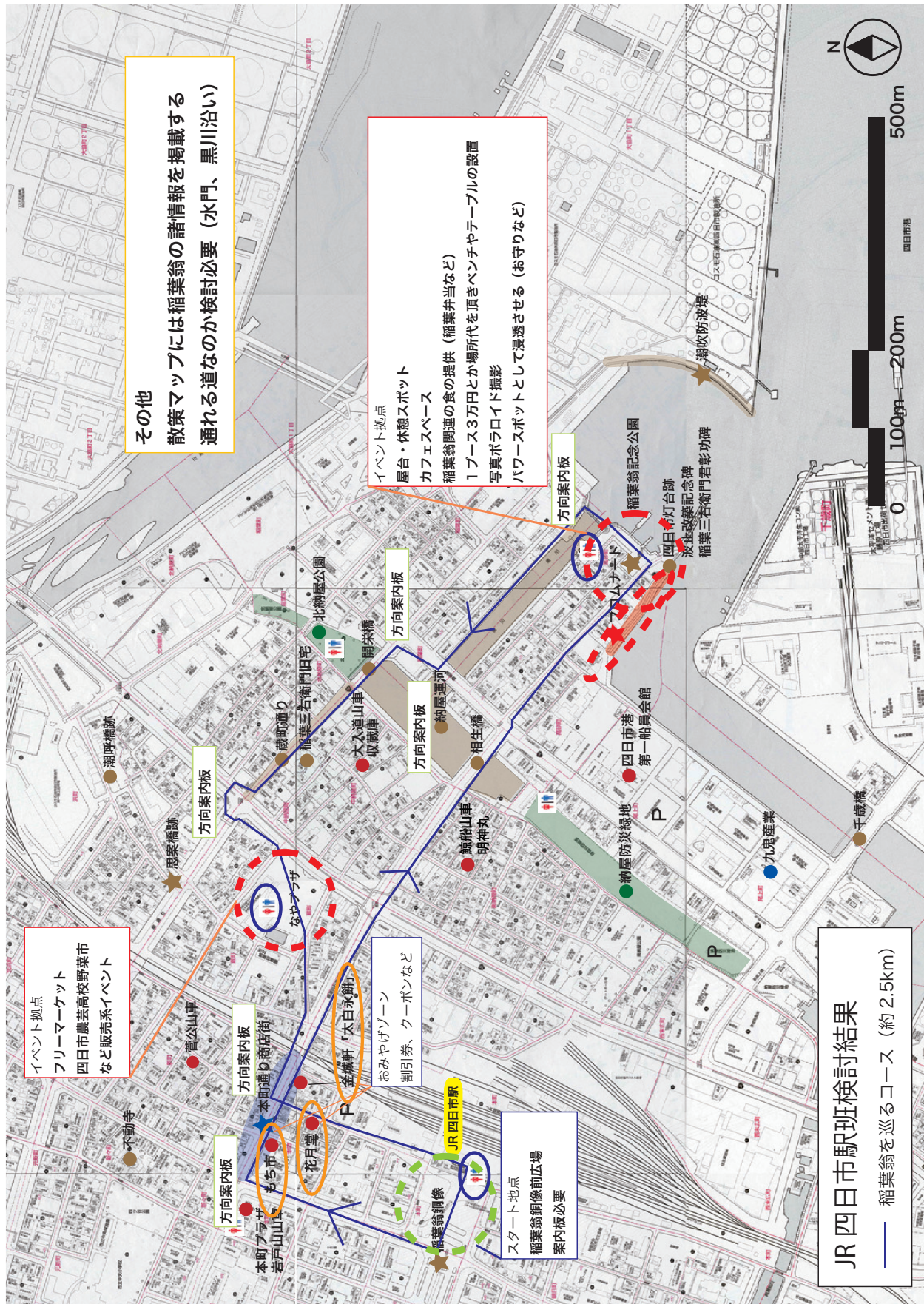
参加者数：31名

ワークショップの概要：イベント分科会の途中経過報告の後、第2回ワークショップの結果の発表、第2回ワークショップの結果を踏まえた資源マップの発表があった。次に、4つのグループに分かれて、4つの起点・終点（近鉄四日市駅、JR四日市駅、なやプラザ、みなと公園）から始まる散策ルートを検討した。最後に全体発表があった。

第3回ワークショップの風景写真







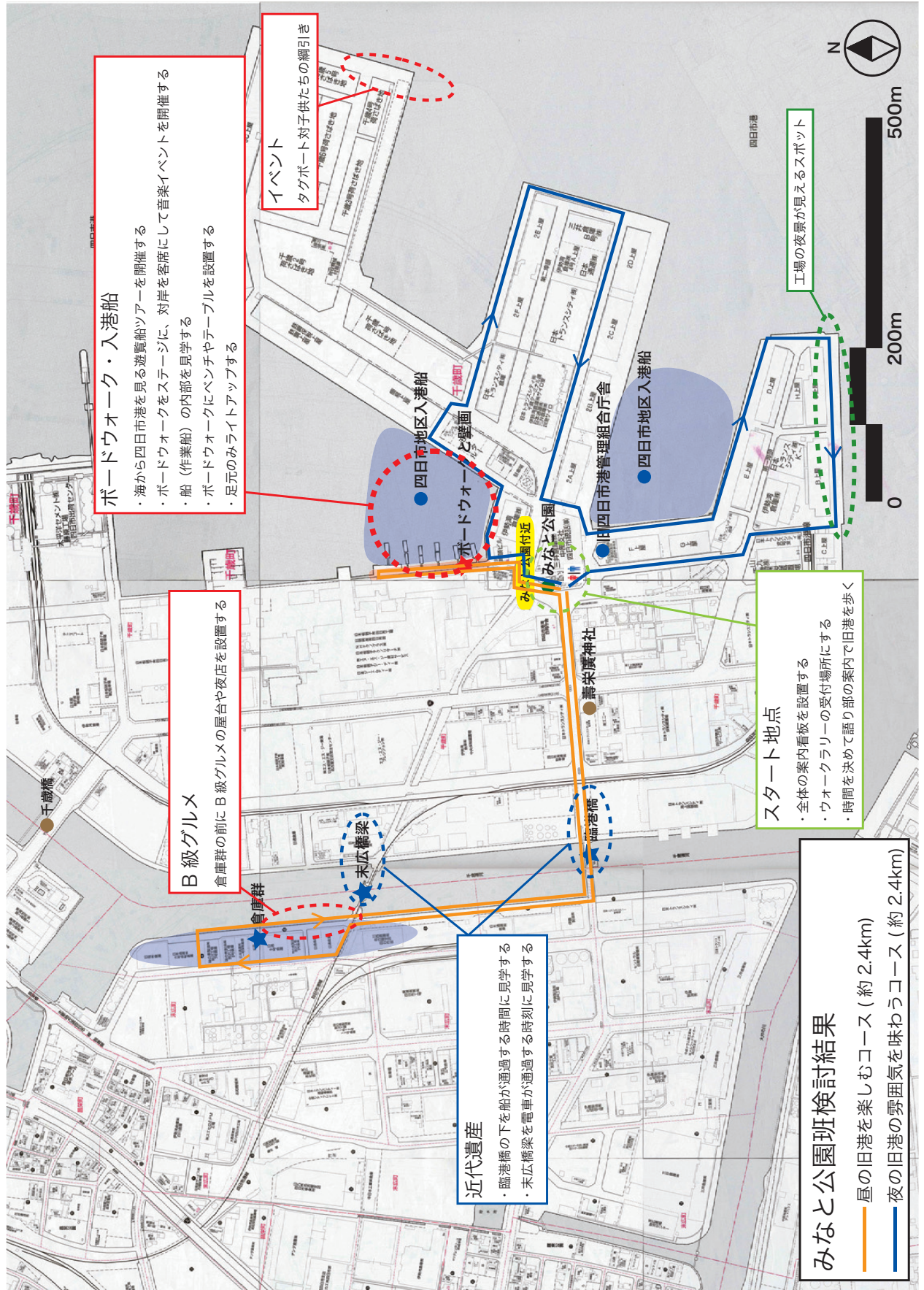
イベント拠点
フリーマーケット
四日市農芸高校野菜市
など販売系イベント

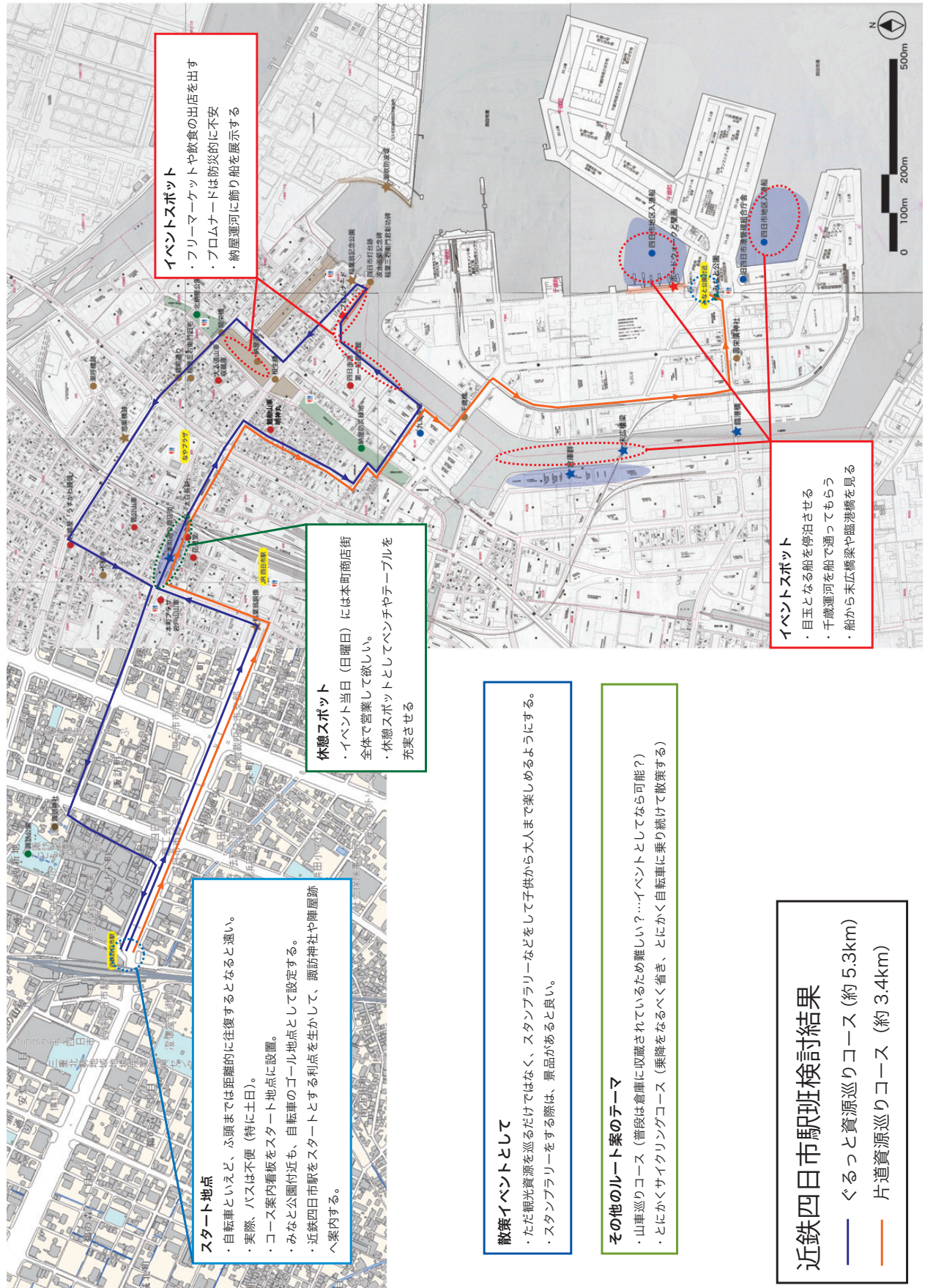
その他
散策マップには稲葉翁の諸情報を掲載する
通れる道なのか検討必要 (水門、黒川沿い)

イベント拠点
屋台・休憩スポット
カフェスペース
稲葉翁関連の食の提供 (稲葉弁当など)
1ブース3万円とか場所代を頂きベンチやテーブルの設置
写真パロイド撮影
パワースポットとして浸透させる (お守りなど)

スタート地点
稲葉翁銅像前広場
案内板必要

JR 四日市駅班検討結果
—— 稲葉翁を巡るコース (約2.5km)





(4) 第4回ワークショップ (7/25)

日時：7月25日(日) 9:00～12:00

場所：なやプラザ、なやプラザ周辺(まち歩き)

参加者数：33名

ワークショップの概要：イベント分科会の途中経過報告の後、第3回ワークショップの結果の発表があった。散策ルートの中でも秋のイベント時にガイドツアーが予定されている「なやプラザ」を起点とするルートに注目し、3つのグループに分かれて、なやプラザを起点・終点とする散策ルートの修正案を検討し、実際に歩いて確認し、修正点等を検討した。最後に全体発表があった。

第4回ワークショップの風景写真

A班検討結果

全般的な感想

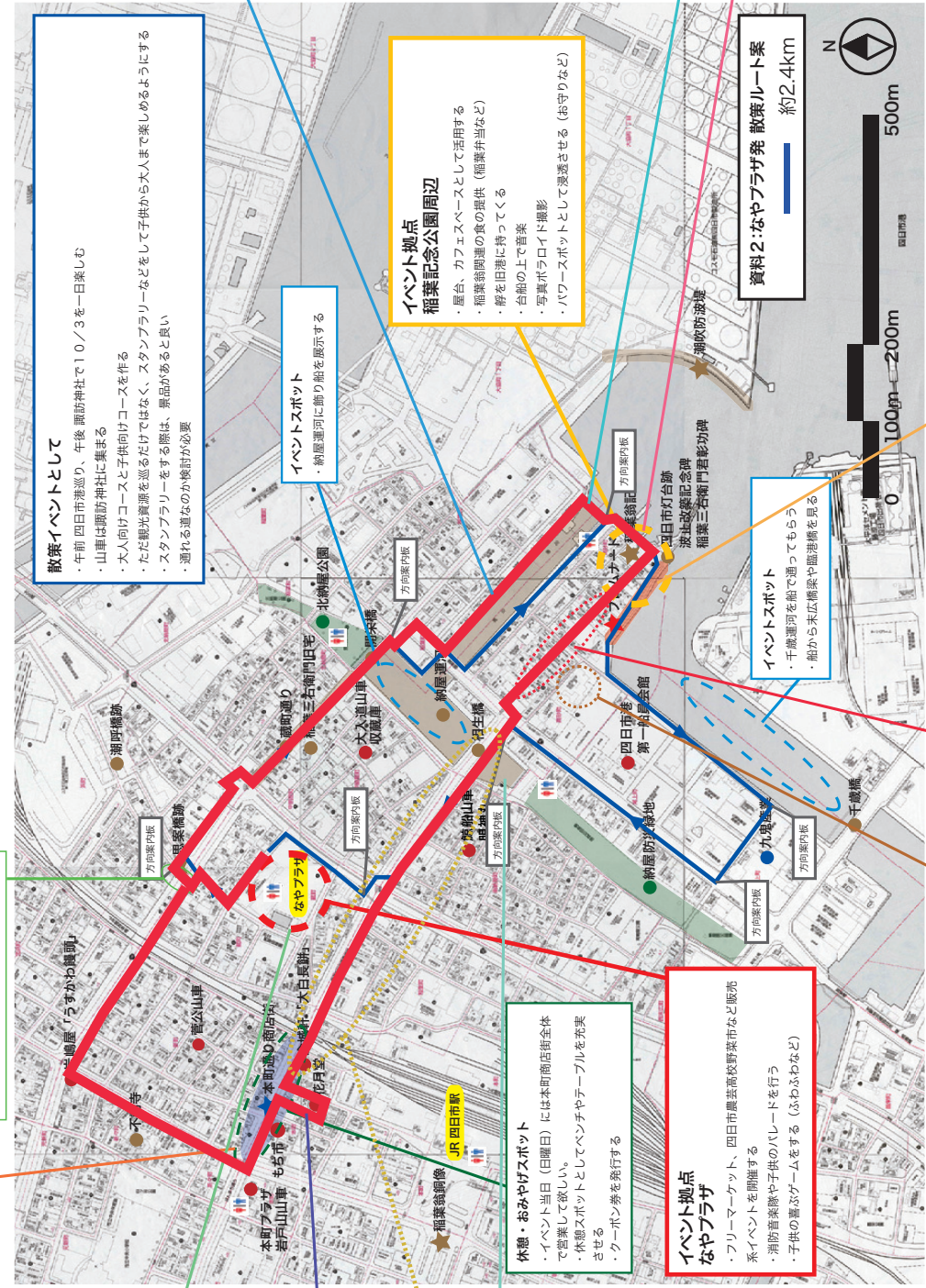
- ・ポイント毎に次のポイントまで何分(何km)かの表示が欲しい
- ・距離はちよどよよかった(約1時間)

思案橋跡

- ・思案橋跡前の横断は横断歩道はあるが、車の交通量が多いため危険を感じるため、誘導員が必要

本町通り商店街

- ・和菓子とお茶のサービスがあるとよい



トイレ

- ・身障者対応かどうかの標記が必要
- ・本町プラザと稲葉翁記念公園のトイレは身障者対応だった

黒川歩道

- ・雑草が茂っており、隣接する建物の金網が下がってきているため、対応が必要

水門

- ・水門の上からの眺めがすばらしい。
- ・潮吹防波堤がよく見えて、カメラのシャッターポイントになっている

稲葉翁記念公園

- ・稲葉翁記念公園にシタサイクスステーションを設置して、千歳方面に行けるようにしたらどうか?

プロムナード

- ・プロムナードへの入り口が分かりにくいので、入り口付近に誘導看板を設置する必要がある
- ・プロムナード付近の防波堤は地元自治会が管理。注意報で防波堤を閉まるのだが、プロムナードを歩いている人は気づいてくれない。角のあたりに注意を促すランプの設置をしてもらいたい

散策イベントとして

- ・午前 四日市港巡り、午後 諏訪神社で10/3を一日楽しむ
- ・山車は諏訪神社に集まる
- ・大人向けコースと子供向けコースを作る
- ・ただ観光資源を巡るだけでなく、スタンプラリーなどをとって子供から大人まで楽しめるようにする
- ・スタンプラリーをすすめる際は、景品があると良い
- ・通れる運なのか検討が必要

イベント拠点 稲葉記念公園周辺

- ・屋台、カフェスペースとして活用する
- ・稲葉翁関連の食の提供(稲葉弁当など)
- ・舟を田舎に持ってくる
- ・台船の上で置業
- ・写真ポラロイド撮影
- ・パワースポットとして誘導させる(お守りなど)

資料2:なやプラザ発 散策ルート案

約2.4km

イベントスポット

- ・納屋運河に船を展示する

イベントスポット

- ・千歳運河を船で通ってもらおう
- ・船から茶臼橋梁や船着橋を見る

遊郭跡

- ・遊郭の名残を残す建物が残っているため、解説を聞きながら歩いてみると楽しいのではないかと
- ・資源マップに掲載してはどうか

休憩・おみやげスポット

- ・イベント当日(日曜日)には本町商店街全体で営業して欲しい。
- ・休憩スポットとしてベンチやテアテーブルを充実させる
- ・クーポン券を発行する

イベント拠点 なやプラザ

- ・フリママーケット、四日市農業高校野菜市など販売
- ・系イベントを開催する
- ・消防音楽隊や子供のパレードを行う
- ・子供の書ぶゲームをする(ふわふわなど)

浜松茂

- ・玄關棟とさつき棟が国の有形文化財に指定された
- ・イベント時には浜松茂にも協力をお願いして、抹茶のサービス(500円程度?)や建物の見学などができるとよい

なやプラザ

- ・なやプラザに散策マップの大きな看板があるとよい

三和商店街

- ・レトロな感じを面白く
- ・屋根が崩れかかっており、危険
- ・資源マップに掲載する程度でよいのでは?
- ・直線で単調だった

運河に台船を置いて、船の目線から相生橋を眺められるとよいのでは?

散策ルートの身障者対応

- ・水門、プロムナード、国道23号線沿いの歩道橋など、段差がある場所が見られた。車いす等の身障者にとって対応するか?
- ・別途、バリアフリーコースが必要かもしれない。

B班検討結果 (散策時間 60分)

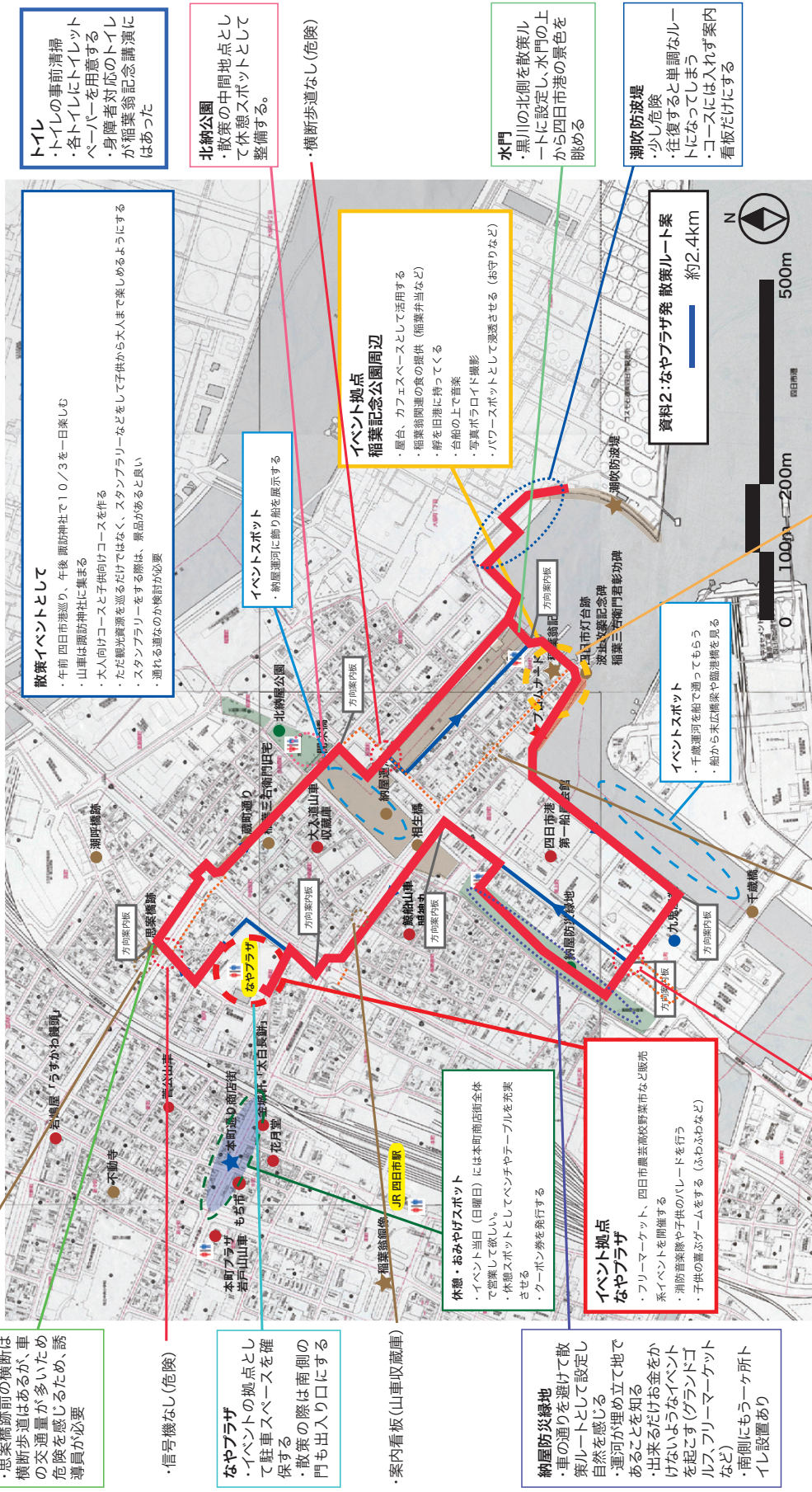
- 修正したルート
- 迂回ルート

考えられる全体的な施策

- 当日の散策時間によっては短縮する必要あり
- 階段が多いため、高齢者・重いすの方は大変(コースをいくつか設定する)
- できる限り方向案内板を設置する
- 横断歩道がない所や車の往来が激しい(23号線)には係員を配置する

散策イベントとして

- 午前 四日市港巡り、午後 諏訪神社で10/3を一日楽しむ
- 山車は諏訪神社に集まる
- 大人向けコースと子供向けコースを作る
- ただ観光資源を巡るだけではなく、スタンプラリーなどをして子供から大人まで楽しめるようにする
- スタンプラリーをする際は、景品があるといい
- 通れる道なのか検討が必要



トイレ

- トイレの事前清掃
- 各トイレにトイレレットペーパーを用意する
- 身障者対応のトイレが稲葉翁記念講演にはあった

北納公園

- 散策の中間地点として休憩スポットとして整備する。
- 横断歩道なし(危険)

イベント拠点 稲葉記念公園周辺

- 屋台、カフェスペースとして活用する
- 稲葉翁関連の食の提供(稲葉弁当など)
- 船を旧港に停泊させる
- 台船の上で音楽
- 写真ボラロイド撮影
- パワースポットとして遊ばせる(お守りなど)

水門

- 黒川の北側を散策ルートに設定し、水門の上から四日市港の景色を眺める

潮吹防波堤

- 少し危険
- 往復すると単調なルートになってしまう
- コースには入れず案内看板だけにする

資料2: なやプラザ発 散策ルート案 約2.4km

稲葉翁記念公園周辺

- ドリンクコーナーを設置する
- 稲葉翁記念公園の説明やプロムナードへの入り口を示す案内看板
- 潮吹防波堤の模型を説明する案内看板か音声で情報を伝える

散策イベントとして

- 午前 四日市港巡り、午後 諏訪神社で10/3を一日楽しむ
- 山車は諏訪神社に集まる
- 大人向けコースと子供向けコースを作る
- ただ観光資源を巡るだけではなく、スタンプラリーなどをして子供から大人まで楽しめるようにする
- スタンプラリーをする際は、景品があるといい
- 通れる道なのか検討が必要

イベントスポット

- 稲葉運河に船を展示する

イベント拠点 稲葉記念公園周辺

- 屋台、カフェスペースとして活用する
- 稲葉翁関連の食の提供(稲葉弁当など)
- 船を旧港に停泊させる
- 台船の上で音楽
- 写真ボラロイド撮影
- パワースポットとして遊ばせる(お守りなど)

イベントスポット

- 千歳運河を船で通ってもらい、船から末広橋梁や臨港橋を見る

案内看板(浜松茂)

- 横断歩道なし(危険)

案内看板(潮呼橋跡)

- 案内看板(潮呼橋跡)

思案橋跡

- 思案橋跡前の横断は横断歩道はあるが、車の交通量が多いため、誘導員が必要
- 信号機なし(危険)

なやプラザ

- イベントの拠点として駐車スペースを確保する
- 散策の際は南側の門も出入り口にする

案内看板(山車収蔵庫)

- 案内看板(山車収蔵庫)

納屋防災緑地

- 車の通りを避けて散策ルートとして設定し自然を感じる
- 運河が埋め立て地であることを知る
- 出来るだけお金をかけないようなイベントを起こす(グラウンドゴルフ、フリーマーケットなど)
- 南側にもラウケッポイル設置あり

休憩・おみやげスポット

- イベント当日(日曜日)には本町商店街全体で営業して欲しい。
- 休憩スポットとしてベンチやテラスを充実させる
- クーポン券を発行する

イベント拠点 なやプラザ

- フリーマーケット、四日市農業高校野菜市など販売系イベントを開催する
- 消防音楽隊や子供のパレードを行う
- 子供の遊ぶゲームをする(ふわふわなど)

C班検討結果

全体的なアイデア

- ・自販機の位置をMAPに示す。 [自販機]
- ・案内をする人はブラカードを持つ。
- ・ルート上の道を横断する箇所には横断旗(黄色)を設置する。
- ・散策を面白くするために、資源にまつわるシヨートイベントを案内人は考える。
- ・パトロールカーを導入して全体の進行のチェックをする。
- ・救護の設置箇所を考える。

散策ルートの車いす・ベビーカー利用者への対応

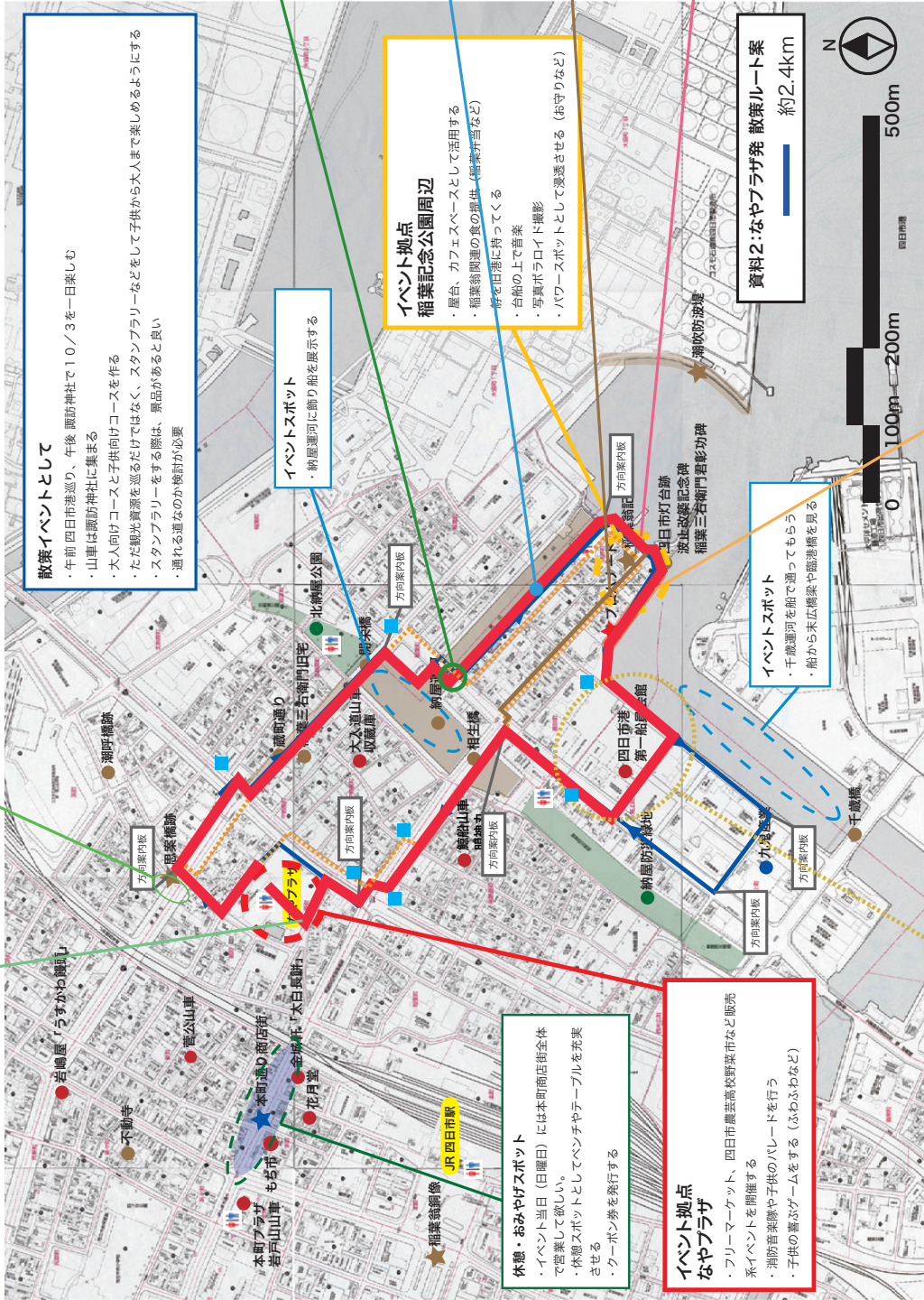
- ・別途、バリアフリーコースをMAPに示す必要がある。
- バリアフリーコース

なやアラザ

- ・戻ってくる際に、南にある門をくぐった方がいい。

思案橋跡

- ・思案橋にまつわる面白いストーリーを案内人に話してもらえると楽しい。



散策イベントとして

- ・午前 四日市港巡り、午後 諏訪神社で10/3を一日楽しむ
- ・山車は諏訪神社に集まる
- ・大人向けコースと子供向けコースを作る
- ・ただ観光資源を巡るだけでなく、スタンプラリーなどをして子供から大人まで楽しめるようにする
- ・スタンプラリーをする際は、景品があると良い
- ・通れる道なのか検討が必要

横断歩道

- ・道を渡る際、横断歩道が無い場合注意
- ・横断歩道を渡る際には、横断歩道を渡るようなコースにする。

プロムナードに家屋の突出があるため危険。何か印(赤い布等)をつけた方が良い。

シヨートカット

- ・各ビューポイントでゆくり話を聞けるようプロムナードを省略したコース

稲葉山車

- ・稲葉山車があるといい。
- ・休憩できるようなスペースを設ける。

イベント拠点 稲葉記念公園周辺

- ・屋台、カフェスペースとして活用する
- ・稲葉山車の食の展示(稲葉山車など) 船を日陰に持つてくる
- ・右船の上で音楽
- ・写真ポイント撮影
- ・パワースポットとして浸透させる (お守りなど)

イベントスポット

- ・納屋運河に飾り船を展示する

資料2: なやアラザ発 散策ルート案 約2.4km

イベントスポット

- ・千歳運河を船で通ってもらい
- ・船から末広橋梁や臨港橋を見る

・単調で特に解説するようなポイントもないので、シヨートカットしてもいい。

プロムナード

- ・プロムナードに休みできる場所(日陰・ベンチ等)があるといい。
- ・プロムナードに敷いてある物がひび割れ等があるためつまづく危険性がある。

(5) 第5回ワークショップ (8/19)

日時：8月19日(木) 19:00～21:00

場所：なやプラザ

参加者数：31名

ワークショップの概要：イベント分科会の途中経過報告の後、第4回ワークショップの結果の発表があった。次に、これまでのワークショップの結果を基にした散策マップ案が発表され、その後、3つのグループに分かれて、グループ毎に散策マップへの修正意見を検討した。最後に全体発表があった。

第5回ワークショップの風景写真

A班検討結果

各資源の説明について

- ・説明にエピソードを入れたいと楽しくない

地図の色が見にくい

- ・私は免許証はもっていますが、強度の色盲です。工学系の人は健康者はばかりですので、理解してもらえないと思います。色、原色にして、線を太く。
- ・海の色と資源の青文字で全体的に青の印象が強い。
- ・文字は黒の方が見やすいのでは？

四日市旧港まち歩きマップ



イベント内容について

- ・子供連れの家族でも楽しめる内容にしてほしい。例えば、大道芸が欲しい。
- ・イベント参加者向けに引きなどできないか？(商品は安いもので当たりは少なくてほしい)
- ・ウォークラリーでクイズの正答率に応じて景品を検討している
- ・イベントに参加する人にとっては安い景品より散策マップをもらうことで十分満足してもらえないのでは？

- ・公共性のない情報掲載については要確認 e x. 個人宅など。マップに掲載されている店と掲載されていない店の区別は？

- ・コンピュータ地図は白紙なので、そのスペースを使って6代目三右衛門と妻「たか」の幼少頃のエピソードを挿入してはどうか？

ガイドツアーの所用時間について

- ・イベント時の所要時間は記載の1.5倍～2倍弱かかる
- ・高校1年生、小学6年生を連れて歩いたが、1時間40分かった。

ガイドツアーの時間帯について

- ・散策の最終打ち切り時間は？近鉄四日市駅でマップをもらってからなやプラサを16時にスタートすると終了時間が18時になってしまう。
- ・散策の出発時間を早めてほしい。
- ・散策ウォークラリーの受付最終は14時頃か？
- ・ガイドツアーは休憩時間は含まれているのか？どこで休憩するのか？

- ・発行主体が四日市港管理組合となっているが、みなとフェスタ実行委員会にするなど検討する必要がある。



- ### イベントPRパンフレットについて
- ・みなとフェスタのチラシに秋の四日市祭のPR(山車の諏訪神社祭り込み時間の記載)をしてはどうか？
 - ・秋の四日市祭との相乗効果は期待するが、みなとフェスタのチラシに秋の四日市祭のPRをする必要はないのでは？

- ・「遊覧建築」の表現は住んでいる人にとっては名譽毀損・人権問題になる可能性がある。「往事を想はせる椅子の家並み」などの表現にできないか。このまま掲載するなら、住んでいる人に確認する必要がある。

B 班検討結果

マップ全体について

- ・文字、アイコン、グリッド表記はより大きく
- ・読みにくい資源名にはフリガナを付ける
- ・国道、県道の表記を色や形で分かりやすく
- ・通りの名前（三浦通り）を入れる

各資源について

- ・グルーピング（歴史、産業、文化、自然）をもう少し強調する

・公共性のない情報掲載については要確認
e x. 遊郭建築の表現、稲葉氏旧宅など

散策（拠点）について

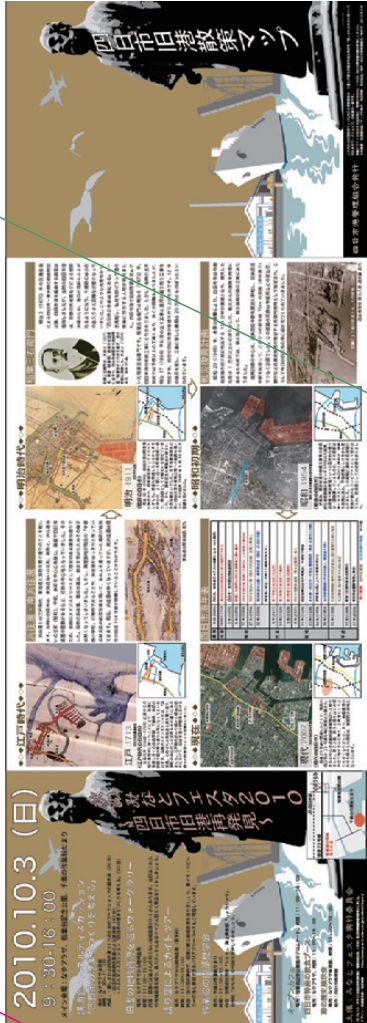
- ・散策ルートには矢印を付ける
- ・散策拠点、マップ配布場所はアイコンや文字を大きくして自分の位置を容易に把握できるようにする。
- ・イベント拠点（なやアラサ）の表記は特に大きくする
- ・レンタサイクル貸し出しポイント（近鉄、JR）にはアイコンをつける

ふ頭について

- ・侵入を防ぐためコンピナーの区画を描く
- ・コスモ石油など大きな企業は描く

・イベント時はよいが、恒久的に用いる場合にガイドツアーコースをどのように表現するのか検討必要。

四日市旧港まち歩きマップ



・ルート上だけでもすべてのコンピニは把握しておく
・コンピニのアイコンが少し分かりにくい

・イベント時、プロムナード周辺の飲食処が分かるようにする

・町名（現在と昔）を記入して比較できるようにしていると面白いかも

・イベント時、プロムナード周辺の飲食処が分かるようにする

C 班検討結果

各資源の説明について

- ・資源の説明をもう少し簡潔にして文字のサイズを大きくした方がいい

地図に線が多くて見にくい

- ・運河跡などは、破線で示すのではなく網かけにするなど表記の仕方を変える。
- ・浜往還なども同様
- ・コースの線はもう少し太く

四日市旧港まち歩きマップ



マップ全体の感想

- 資料としては良いが実際にまち歩きをする際には使いづらいかもしれない。
- A3 サイズのマップやモデルコースのページは文字のサイズも良く非常に見やすい。

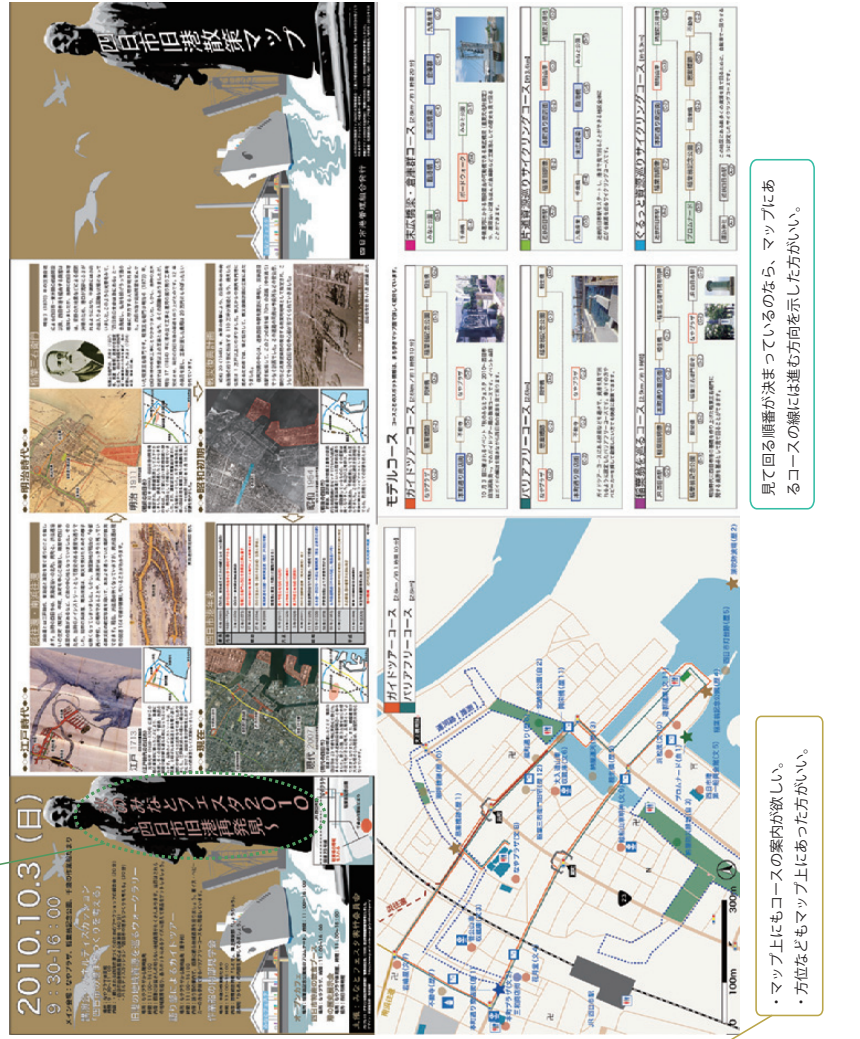
道がどこに向かっているのかを示す。

- ・交差点をコース上だけでいいのて示す。

イベントとの対応

- ・このマップを持ちながら散策するのなら、コース上に A1 のマップを数か所設けて現在地がわかるようにできたらいい。
- ・コースにある資源だけでもいいので、実際の場所にも説明の看板があった方がいい。

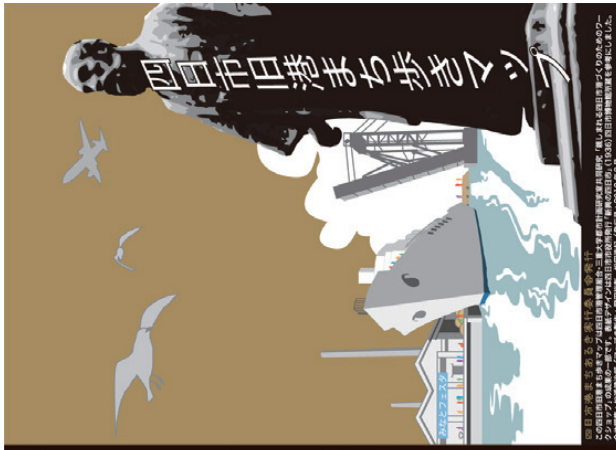
イベント名をもう少し目立つ色にした方がいい。



マップ上にもコースの案内が欲しい。

- ・方位などもマップ上にあった方がいい。

見て回る順番が決まっているのなら、マップにあるコースの順に進む方向を示した方がいい。



西田 龍雄氏（右）は、四日市港の歴史を語り継ぐとともに、四日市港の発展に貢献するべく、さまざまな取り組みを行っています。

昭和1954

この頃、四日市港は、戦後の復興期を迎え、港湾施設の整備が進められていました。この頃の四日市港は、戦後の復興期を迎え、港湾施設の整備が進められていました。

昭和1954

この頃、四日市港は、戦後の復興期を迎え、港湾施設の整備が進められていました。この頃の四日市港は、戦後の復興期を迎え、港湾施設の整備が進められていました。

現代 2007

現代の四日市港は、高度な技術と設備を備え、国際的な貿易の拠点として発展しています。この頃の四日市港は、高度な技術と設備を備え、国際的な貿易の拠点として発展しています。

現代 2007

現代の四日市港は、高度な技術と設備を備え、国際的な貿易の拠点として発展しています。この頃の四日市港は、高度な技術と設備を備え、国際的な貿易の拠点として発展しています。

10.3 MINATO FESTA

秋のみなとフェスタ2010

秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010

秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010

秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010 秋のみなとフェスタ2010



まち歩きモデルコース

まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース

まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース

まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース まち歩きモデルコース

4 みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース

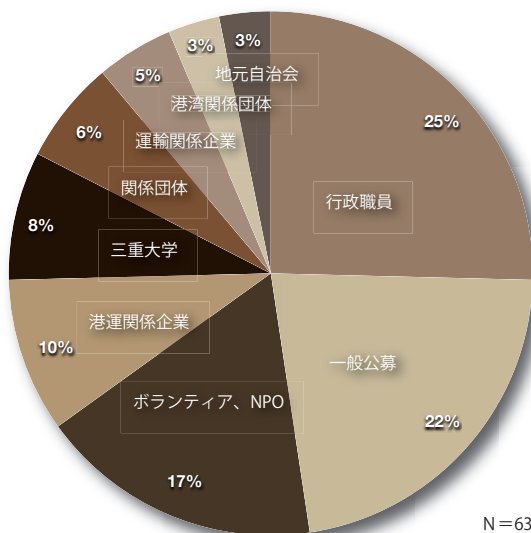
みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース

みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース

みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース みなと公園 末広橋梁・倉庫群コース

(7) ワークショップ参加者の属性

ワークショップ参加者の属性を見ると、多い順に、①行政職員（四日市市役所、四日市港管理組合）：16名、②一般公募：14名、③ボランティア、NPO（みなとサポーター、みなと講座卒業生、NPO法人市民社会研究所）：11名、④港運関係企業（近鉄、三重交通）、と続く。



図：ワークショップ参加者の属性

(8) 四日市港ワークショップに関する新聞記事・TV報道

「旧四日市港観光ルートつくろう」（見出し抜粋）
中日新聞（2010.5.8）

「親しまれる四日市港へ ワークショップ参加募集」（見出し抜粋）読売新聞（2010.5.10）

まちづくりワークショップ（四日市港）
三重テレビ放送（三重テレビワイドニュース）2010.5.30



「親しまれる四日市港づくりワークショップ」
ケーブルテレビ四日市「NEWS エリア便」2010.5.31



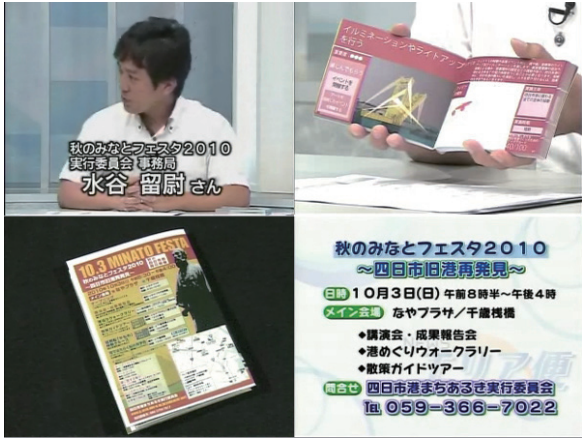
「親しまれる四日市港づくり」
ケーブルテレビ四日市「NEWS エリア便」2010.7.27



「親しまれる四日市港づくり」
ケーブルテレビ四日市「NEWS エリア便」2010.8.20



「旧港巡りの名先導—四日市散策マップ作成中—歩きやすさや歴史紹介に知恵」（見出し抜粋）中日新聞（2010.8.26）



「秋のみなとフェスタ2010」

ケーブルテレビ四日市「NEWS エリア便」 2010.9.28

「旧港の歴史 再発見 四日市でフェスタ 散策ツアーなど楽しむ」(見出し抜粋)

伊勢新聞 (2010.10.5)



「みなと再発見！」ケーブルテレビ四日市「ちゃんねるよっかいち VOL.568」 2010.11.1-10



「四日市で来月3日「みなとフェスタ」散策の楽しさアピール」(見出し抜粋) 中日新聞 (2010.9.18)



「四日市港旧港 風情を満喫 フェスタで親子ら散策」(見出し抜粋) 中日新聞 (2010.10.4)



「秋のみなとフェスタ2010」ケーブルテレビ四日市「NEWS エリア便」 2010.10.5

「港の魅力を再発見 まちづくり考える 四日市でフォーラム」(見出し抜粋) 松浦助教が親しまれる四日市港づくりのためのワークショップの紹介をした。中日新聞 (2010.11.11)

「産業、消費者の港に 四日市でみなとまちづくりフォーラム」(見出し抜粋) 松浦助教が親しまれる四日市港づくりのためのワークショップの紹介をした。伊勢新聞 (2010.11.11)

3. 秋のみなとフェスタ 2010 の開催

(1) 組織構成と分科会・委員会での検討内容

昨年度提案された 100 のアイデアカードの一部を社会実験的に実践するイベント・プロジェクトを実行するための委員会を組織した。まず、実行委員会を立ち上げる前に、4 回のイベント分科会を開催して、イベント内容等を検討した。その後、関係団体の代表者を構成員とする「四日市港まちあるき実行委員会」を立ち上げ、4 回の実行委員会を開催した。イベント分科会及びまちあるき実行委員会のメンバー構成は下図の通りである。

以下、イベント分科会、実行委員会の概要について整理する。

1) 第 1 回イベント分科会

日時：6 月 28 日（月） 15:00 ～ 17:00

場所：なやプラザ

参加者数：8 名

分科会の概要：イベント分科会の役割及びイベント開催までのスケジュールについて確認した。イベントの日程案について、秋の四日市まつりや港湾荷役の関係から協議し、10 月 3 日に開催する方向で進めていくこととした。社会実験イベントについては、昨年度のワークショップで検討した 100 のアイデアの中から、事務局で実現性や WS での意見を反映させて 10 ～ 20 程度に絞りこみ、それを土台に次回から検討することとした。その他として、イベントの内容等によって、当日の運営や事前の準備について協力を依頼することとした。

<p>本町自治会 みなとサポーター 港地区連合自治会 四日市港運協会 四日市観光協会 四日市港振興会 四日市市政策推進課 四日市市商業観光課 四日市商工会議所 日本トランスシティ 三重大学 秋まつり実行委員会（オブザーバー）</p>	<p><委員（所属）> 四日市商工会議所 港地区連合自治会 四日市港運協会 四日市港管理組合 四日市みなとサポーター 四日市港振興会 四日市観光協会 FMよっかいち 三重大学 四日市市 四日市港管理組合 四日市本町通り商店街振興組合（オブザーバー）</p> <p><事務局> 四日市港管理組合振興課 商工会議所産業振興課 三重大学都市計画研究室</p>
---	---

図：イベント分科会のメンバーの所属

図：四日市港まちあるき実行委員会の構成

2) 第2回イベント分科会

日時：7月8日（木） 17:00～18:30

場所：なやプラザ

参加者数：8名

分科会の概要：イベントの内容について協議し、以下のことを確認した。イベントの実施主体については、今後、検討する。イベントは、マップを使った散策をメインの行事とする。散策は、自由散策とガイドツアーが考えられ、ガイドツアーについては事前募集とする。ガイドツアーについては、過去に港サポーターが行った方法を参考にして、一回の人員数や募集のやり方について、十分に検討したうえで行う。特に安全対策が重要であり、パトロールする車や沿道警備、ガイドと参加者の人数を最適にするように計画する。今回、100のアイデアを24まで絞り込んだ案となっているが、これを基に今後イベントで実施するアイデアを決定する。

3) 第3回イベント分科会

日時：7月21日（水） 16:00～17:30

場所：なやプラザ

参加者数：9名

分科会の概要：イベントの開催主体について以下のことを決定した。イベントを行うにあたり、組織を作ることが必要となるため、実行委員会形式で開催することとする。実行委員会の構成については、現在のイベント分科会と同じ構成のメンバーに管理組合から個別に依頼していく。委員の役割としては、現在のイベント分科会への参加と同等で、当日の動員や開催への協力については、個別で依頼する。イベントの名称については、次回、各自案を持ち寄って決定することとした。開催日は10月3日で決定とした。社会実験イベントについては、今回の議論を踏まえ、個々のアイデアについて絞り込んだ上で、管理組合で必要予算・人員について検討し、次回提案することとした。その他として、次回の分科会の日程を確認した。

4) 第4回イベント分科会

日時：8月10日（水） 16:00～17:00

場所：なやプラザ

参加者数：13名

分科会の概要：実行委員会の構成、規約については事務局案で了承された。第1回実行委員会の開催日については、8月末から9月上旬で調整することとした。イベント名称について検討の結果、「秋のみなとフェスタ2010～四日市旧港再発見」に決定した。イベント概要については、ガイドツアーをメインイベントとして、飲食ブースなど、人が集まりやすいものにするよう検討することとした。イベント当日の運営については、スタッフが50名ほど必要となるため、WSメンバーに声かけするとともに、実行委員会構成メンバーに動員の依頼を個別で行うこととした。



写真：第3回まちあるき実行委員会の風景

5) 第1回四日市港まちあるき実行委員会

日時：9月13日（月） 16:00～17:00

場所：四日市港管理組合 7階第2会議室

参加者数：17名

実行委員会の概要：四日市港まちあるき実行委員会規約（案）について、事務局案を提出し、承認された。役員を選出について、事務局案を提出し、承認された。事業計画（案）について、資料に基づき「みなとフェスタ2010」と散策マップについて事務局が説明し、承認された。予算（案）について、事務局案を提出し、承認された。

6) 第2回四日市港まちあるき実行委員会

日時：11月17日（月） 16:00～17:00

場所：四日市港管理組合 7階第2会議室

参加者数：16名

実行委員会の概要：秋のみなとフェスタ2010について、四日市港管理組合、三重大学からイベント報告があった。来年度以降に備えて課題を整理した。通年版まち歩きマップについては、イベント時に配布したまち歩きマップを基にして通年版まち歩きマップを制作することとした。最後に、来年度以降の取り組みについて意見交換を行った。

7) 第3回四日市港まちあるき実行委員会

日時：2月3日（木） 10:00～11:00

場所：四日市港管理組合 7階第4会議室

参加者数：15名

実行委員会の概要：秋のみなとフェスタ2010の検証について事務局から説明があり、委員から今後の課題についての意見があった。通年版まちあるきマップについては、事務局から現在の作業状況の説明があり、委員からマップのレイアウト等についての意見があった。平成23年度の事業については、引き続き、みなとフェスタを実施することを確認した。

8) 第4回四日市港まちあるき実行委員会

日時：3月10日（木） 14:00～15:00

場所：四日市港管理組合 7階第3会議室

参加者数：15名

実行委員会の概要：まず、平成23年度以降も継続して実行委員会を開催するために規約の変更等の提案があり、承認された。次に、平成22年度の収支決算見込について報告があり、来年度に向けて決算処理を進めることとした。四日市港まち歩きマップ案が示され、委員から案に対する修正意見が出た。修正を行った上で四日市港まち歩きマップを印刷することとした。秋のみなとフェスタ2010の検証について、前回の内容を踏まえて、全体のまとめをとりまとめたものが事務局から説明された。最後に平成23年度の四日市港まちあるき実行委員会について、事務局から、多様な主体が集まり、ハード・ソフトの両面から意見を交換する場づくりを考えている旨の提案があった。具体的な内容については、固まり次第、連絡することとした。




図：四日市旧港まち歩きマップ（通年版）その2

まち歩き みどころ

歴史的資源


★ 思案橋 歴1 C-2

徳川家康が本能寺の変を聞き、三河へ帰国する時、海路にするか陸路にするか思案に暮れたという故事から、この橋の名がつけられたと言われています。昔は思案橋の近くに四日市湊がありました。




■ 不動寺 歴2 C-2

このあたりは四日市港の中心であり、竜の形をした松に灯明をつけて灯台代わりとした竜灯は、港の目印でした。寛永16年(1639)、損斐川で大洪水があり、美濃国高須にある観音寺から「不動明王の像」が伊勢湾へ漂流し、四日市南納屋の漁師、井垣某の漁網にかかりました。この地に縁のある御仏だるうと竜灯松の下に御堂を建立し、祀ったのがはじまりだと言われています。



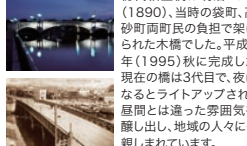
★ 稲葉翁銅像 歴3 B-2

昭和2年(1927)、市制30周年記念事業として、近代港湾の基礎を築いた6代目稲葉三右衛門の銅像がつけられました。当時の像は戦時中の金属供出によって失われ、現在は昭和30年につくられた2代目です。



■ 相生橋 歴4 D-2

初代相生橋は明治23年(1890)、当時の袋町、高砂町両町長の負担で架けられた木橋でした。平成7年(1995)秋に完成した現在の橋は3代目で、夜になるとライトアップされ、昼間とは違った雰囲気を感じ出し、地域の人々にも親しまれています。



内はP4～P7の地図上の位置、★は重要な資源を表しています。


★ 潮吹防波堤 歴5 E-3

稲葉三右衛門が築いた旧港が暴風雨によって大破したため、明治26年(1893)服部長七によって築かれました。長七は、波の力を弱めるための堤防の腹部に穴をあける工夫を凝らし、強度な人造石を発明し、堤防を造りました。平成8年(1996)国の重要文化財に指定されています。



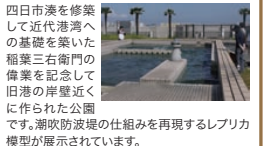
■ 千歳橋 歴6 D-3

大正15年(1926)に完成した、尾上町と千歳町(二号地)を結ぶ千歳橋は、昔は橋脚の本数が多く、オプジェもありました。



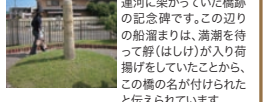
★ 稲葉翁記念公園 歴7 D-3

四日市湊を修築して近代港湾への基礎を築いた稲葉三右衛門の偉業を記念して旧港の岸壁近くにつくられた公園です。潮吹防波堤の仕組みを再現するレプリカ模型が展示されています。



■ 潮呼橋跡 歴8 D-2

運河に架かっていた橋跡の記念碑です。この辺りの船溜まりは、満潮を待つて解(はしけ)がいたり荷揚げをしていたことから、この橋の名が付けられたと伝えられています。




■ 波止改築記念碑と稲葉三右衛門君影功碑 歴9 D-3

波止改築記念碑は、防波堤改築を記念して明治27(1894)年に作られた碑です。稲葉三右衛門君影功碑は、明治30年(1897)に建てられた顕彰碑です。これらは潮吹き防波堤とともに国の重要文化財に指定されています。



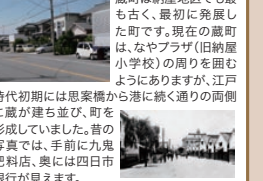
■ 開栄橋 歴10 D-2

相生橋の北に位置し、納屋運河に架かる開栄橋は旧蔵町と稲葉町を繋ぎ、思案橋に続く歴史ある橋です。昔の写真では橋を渡った左手に四日市郵便局があり、半鐘の脇には浜往還の松がみえます。




■ 蔵町通り 歴11 D-2

蔵町は納屋地区でも最も古く、最初に発展した町です。現在の蔵町は、なやプラザ(旧納屋小学校)の周りを囲むようにありますが、江戸時代初期には思案橋から港に続く通りの両側に蔵が建ち並び、町を形成していました。昔の写真では、手前に九鬼肥料店、奥には四日市銀行が見えます。



■ 納屋運河 歴12 D-2

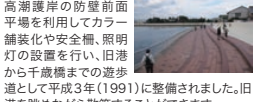
対岸の白亜の洋館は四日市郵便局で、右奥には開栄橋、その向こうには倉庫がありました。



自然的資源

★ プロムナード 自1 D-3

高潮護岸の防壁前面平場を利用してカラー舗装や安全柵、照明灯の設置を行い、旧港から千歳橋までの遊歩道として平成3年(1991)に整備されました。旧港を眺めながら散歩することができます。



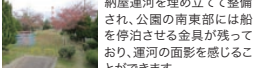
■ 納屋防災緑地 自3 C-3

幅約50m、全長約300mの南北に細長い防災緑地で、自然豊かなオープンスペースで、遊具なども整備されています。



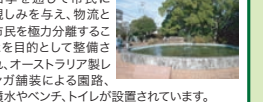
■ 北納屋公園 自2 D-2

納屋運河を埋めて立て整備され、公園の南東部には船を停泊させる金具が残っており、運河の面影を感じることができます。



■ みなと公園 自4 D-5

四季を通じて市民に親しみを与え、物流と市民を極力分離することを目的として整備され、オーストラリア製レング舗装による園路、噴水やベンチ、トイレが設置されています。



まち歩き みどころ

産業的資源


★ 本町通り商店街 歴1 C-2

現在、通りの両側のアーケードには東海道五十三次の各宿場の浮世絵がかけられています。



★ 倉庫群 歴2 C-4

千歳運河沿いには物流を象徴する倉庫群が建ち並んでいます。



■ 三和商店街 歴3 C-2

細い路地沿いに居酒屋が建ち並び、トロな商店街です。



■ 四日市地区入港船 歴7 D-5

四日市地区には様々な船が入港します。自動車運搬船や商船学校の船、化学薬品を運搬する船など多種多様です。



内はP4～P7の地図上の位置、★は重要な資源を表しています。

★ 末広橋梁と臨港橋 歴4 C-4

千歳運河にかかる現役唯一の跳開式可動鉄道橋梁です。昭和6年(1931)に竣工しました。全長58メートルのうち中央部16メートルの橋桁が80度ほど跳ね上がります。平成10年(1998)に国の重要文化財に指定されました。



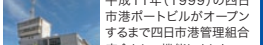
■ 臨港橋 歴5 C-5

末広町・千歳町間の千歳運河に架けられた可動橋(跳ね上げ橋)です。船舶が通るときは遮断機で車の通行を止め、中央部の橋桁を約70度押し上げて開きます。初代は昭和7年(1932)に竣工しました。現在の橋は平成3年(1991)11月に完成した3代目です。



■ 旧四日市港管理組合庁舎 歴6 D-5

平成11年(1999)の四日市港ポートビルがオープンするまで四日市港管理組合庁舎として機能しました。



文化的資源

★ ボードウォークと壁面 文1 D-4

約100メートルほどのボードウォークから様々な船を眺めることができ、壁面は地元高校生の手により平成8年(1996)4月に完成しました。



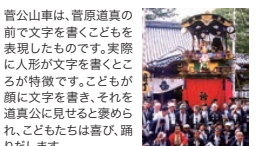
■ なやプラザ 文2 C-2

廃校となった納屋小学校の建物を活用して、市民活動・生涯学習のための拠点施設として整備されました。



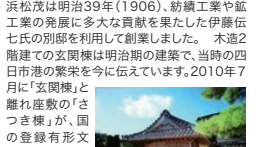
■ 菅公山車 文3 C-2

菅公山車は、菅原道真の前で文字を書く子どもを表現したものです。実際に人形が文字を書くところが特徴です。子どもが顔に文字を書き、それを道真公に見せると褒められ、こどもたちは喜び、踊りました。



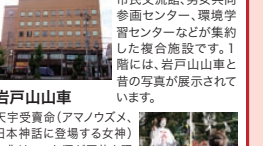
■ 浜松茂 文4 D-3

浜松茂は明治39年(1906)、紡績工業や紙工業の発展に多大な貢献を果たした伊藤藤七氏の別邸を利用して創業しました。木造2階建ての玄関棟は明治期の建築で、当時の四日市港の繁栄を今に伝えています。2010年7月に「玄関棟」と離れ座敷の「さつき棟」が、国の登録有形文化財に指定されました。



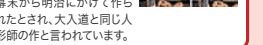
■ 本町プラザ 文5 C-2

市民交流館、男女共同参画センター、環境学習センターなどが集った複合施設です。1階には、若戸山山車と昔の写真が展示されています。



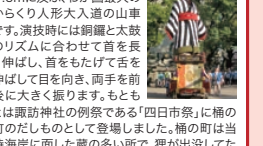
■ 若戸山山車

天宇受賣命(アマノウズメ、日本神話に登場する女神)に化けた狸が正体を現し、腹鼓を打ちながら華丸が彫れたというユニークなからくり人形山車です。初代は幕末から明治にかけて作られたとされ、大入道と同じ人形師の作と言われています。



■ 大入道山車 文6 D-2

首を伸ばした時の高さが約7.6mに及び、わが国最大のからくり人形大入道の山車です。演技時には銅鑼と太鼓のリズムに合わせて首を長く伸ばし、首をもたげて舌を伸ばして目を向き、両手を前後には大きく振り回します。もともとは講談社社の例祭である「四日市祭」に橋の町かとして登場しました。橋の町は当時海岸に面した蔵の多い所で、狸が出没したたびたび人を驚かせたので、これを鎮めるために「大入道」を制作したと言われています。



■ 鯨船明神丸山車 文7 C-2

全長約8メートル、幅約2メートルの船型の山車で、屋形をもち、各所を金箔の彫刻と幕で飾り、船首部には大型の水押しと金糸の下がりを持つ、豪華な意匠の山車です。



この四日市旧港まち歩きマップは、四日市港管理組合・三重大学都市計画学研究室共同研究「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ」の成果の一部です。
 【参考文献】 四日市港管理組合「四日市港開港百年史(2000)」、四日市市立博物館「ふるさとの遺産(1997)」、四日市市立博物館「学んだ四日市(2000)」、四日市市立博物館「海と港の博物館(1999)」、福山道隆「目撃する四日市の100年」(名古屋新聞社出版、1990)、四日市市立総合資料館「目撃する四日市の100年—第一巻 工務新編」(名古屋新聞社出版、1992)
 ● 撮影スタッフは四日市市役所発行「親しまれる四日市(1996)四日市博物館開館を機にしました。」

図：四日市旧港まち歩きマップ(通年版) その3

まち歩き ひとやすみ

四日市港の発展とともに築き上げてきた四日市旧港エリア。国の重要文化財などの歴史的・文化的遺産のみならず、たくさんのお店が集まっています。名所だけを足早に訪ねるだけでなく、時にはくつろぎ〜と一泊して全備を見渡すのもオススメ。歩き疲れたらちよっとお休み、そんなときにもぴったりのおしゃれなカフェから老舗のお店や宿泊施設をご紹介。四日市旧港エリアをたっぷりと、堪能してください。

内はP4〜P7の地図上の位置を表しています。

1 岩嶋屋 地図 C-1



創業は天保8年。江戸時代より、岩嶋屋のうすかわら餅として愛されています。厳選されたつぶあんとはんどのりの香りがよく調和した四日市を代表する和菓子のひとつです。

☎059-352-3611
四日市市新町4-7
8:30~19:00
※不特定
※あり

2 花月堂 地図 C-2



創業明治16年(1883)の老舗です。たつぷりとした餅に卵二重餅をくるみこんだ、大きな量中である「栗女の里」は、四日市周辺の住民には広く知られた郷土銘菓です。

☎059-352-3131
四日市市新町11
8:00~20:00
但し(10:00~14:00)
※元店

3 伊勢屋 かんびんたん 地図 B-2



昔から海産物・乾物は長寿の元とわれ遠く平安朝の昔から、欠く事の出来ない保存食品として親しまれてきました。ひと味違う乾物専門店の(海の幸・山の幸)を、日本の古き良き味を再現してください。

☎059-355-2978
四日市市新町8-25
10:00~18:00
※年中無休
※あり

4 志くれば 喜太八時雨本舗 地図 C-2



「旨い!」の言葉に、愛され続けて創業130年。三代目・四代目・五代目と受け継がれた老舗伝統の味は、昔ながらの手作りのなせる業。味にこだわった熟練の職人の心が生きています。

☎059-352-2265
四日市市新町1-8
8:00~19:00
※無し

5 太白軒 金城軒 地図 C-2



創業慶応4年(1868)の老舗の金城軒。太白長餅は、国産のもち米・北海道産の小豆を使用して作られたお菓子で、こだわりの香ばしさと柔らかい食感が特徴です。

☎059-352-2463
四日市市本町6-7
8:30~19:00
※不特定

6 御菓子司 松花堂 地図 C-2



創業明治40年 四季の和菓子をかきついでらる店徳川家康公が創業に暮れた「思案橋」を、土饅だたの事でも、くみを賞したに使った醤油味のくるみゆべしの御菓子で表現いたしました。

☎059-352-3725
四日市市新町2-8
8:30~19:00
※不特定
※あり

7 jouer du Tanbjan 地図 B-2



ショーケースには季節限定メニューやフルーツを使ったケーキが並び、おしゃれで落ち着いた雰囲気を感じる店内。銀行を改装し、金庫室を利用したカフェスペースもあるパティスリー。

☎059-355-1525
四日市市本町2
10:00~19:00
※丹波(祝日の場合は曜日)あり

8 第一船員会館 地図 B-3



「おかえりなさい」の真心で迎えてくれる。心温まるみんなの宿。一泊¥3,200からとリーズナブルな価格も魅力。お食事は、日替わりランチが¥600。事前予約で朝・夕のお食事もお楽しみいただけます。

☎059-352-5211
四日市市本町1-36
チェックイン15:00~
チェックアウト9:00
※不特定
※あり

9 ニューコトキ 地図 C-1



昭和49年創業以来、手間を惜しまず常に変わらない味を守り続ける老舗洋食店。自慢はじっくり煮込んだ自家製メダカソース。人気のハヤシライスや牛ステーキやハンバーグなどのメニューでこの味が堪能できます。

☎059-351-3561
四日市市本町2-17
11:30~14:00
16:30~21:00
※月日あり

10 日本料理 浜松茂 地図 B-3



浜松茂は明治39年紡績工業や鉱工業の発展に多大な貢献を果たした伊藤伝七氏の別邸を利用して創業。木造2階建ての玄關様は明治期の建築で当時の四日市港の繁栄を今に伝えています。

☎059-351-2491
四日市市本町12
11:00~15:00,
17:00~22:00
※不特定
※あり

11 Live Café FULL HOUSE 地図 B-1



Live Houseとして39年目を迎えたFull Houseは、ジャズライブ、サルサなど充実したイベントを行っています。もちろん、ランチタイム、カフェタイムもゆっくりとお過ごしいただけます。

☎059-352-4977
四日市市本町13-3
11:00~23:00
※不特定
http://www.fullhousefullhouse.com

12 創作レストラン 料理 喫茶 ミヨシ&どんくり 地図 C-2



元北勢中央卸売市場だったマスターが引退後、自分があったらなぁという理想の店をオープン。新鮮な魚介類のメニューを多く取り揃え、1コイン(¥500)で豪華な朝食が味わえます。

☎059-351-6538
四日市市本町1-6
5:30~13:00
18:00~22:00(L.O.)
※不特定
※あり

13 もち市 地図 C-2



伝統の味を基本に、厳選素材である滋賀県産第二重糖・岐阜県産高山糯と北海道十勝産小豆を現代的に調整して、お客様に美味しく召し上がっていただくように真に込めて、日々新たに製造しています。

☎059-352-2887
四日市市本町3番3号
8:30~17:30
※不特定
※あり

14 うどん そば 八百文 地図 C-2



終戦前から受け継ぐ伝統的な味を守り、三代目となる大将が一つつの工程に丹精こめて練った手打ちうどんが自慢。メニューは、そば、丼物もあり出前も承ります。

☎059-352-5454
四日市市本町5番6
11:00~14:00,
17:00~19:30
※不特定
※あり

15 洋食ダイニング La-dish(ラ・ディッシュ) 地図 C-2



手作りハンバーグが人気のラ・ディッシュ。10年前に開発されたハンバーグの黄金レシピは、コクとジュースさを追求しつづけています。デザートが付くランチセットも大人気。

☎059-352-3331
四日市市本町5-1
11:30~15:00(L.O.)
18:00~22:00(L.O.)
※月日あり

まち歩き まなび

江戸 1713 四日市市街測量歴地図



〈江戸時代の四日市〉
元禄元年(1688~1704)に湊がこの地の東海岸に移ったことにより、急速に発展し多くの廻船問屋・干鰯商・漁民の納屋や蔵が軒を連ねる町になったといわれます。当時のメインストリートは、「浜往還」と呼ばれる東海道と湊を繋ぐ道で、湊町の中心だった浜町もその通りにありました。江戸時代終わり頃から明治の初めにかけて、四日市港は伊勢湾における最大の商業港として大変賑わいました。

明治 1911 四日市市街測量歴地図



〈明治時代の四日市〉
明治32年(1899)、四日市港は開港場に指定され、国際貿易港としてスタートしました。鉄道も開通したことからまちの中心は、より駅に近い本町商店街へ移り、商店街としての賑わいを見せていました。また、講和記念博覧会が催され、大変な賑わいでした。太平洋戦争激化に伴い四日市港も軍需工場への転換を強いられ、その結果1945年6月18日に大空襲を受けました。

現代 2007 四日市地区空中写真



〈現代の四日市〉
国道23号線が開通したことで、現在の四日市は23号線を境に東西に分断され、まちの中心は近鉄四日市駅周辺へと移りました。第2ふ頭、第3ふ頭をはじめ埋立て地がさらに増え、工業港としてより大きくなりました。また、納屋遺河の大半も埋められ現在は、納屋防災緑地となっています。

昭和 1954 戦前四日市市街測量歴地図



〈戦後の四日市〉
終戦後、疎勤新道の拡幅工事等の計画的な街路整備が急ピッチで行われた結果、浜往環や南浜往環といった歴史的な通りは一部廃棄しては、復興も急激に進み、平和産業として生まれ変わりました。この時期に潮吹き防波堤の背後が新たにコンピナートとして埋め立てられ、防波堤としての役割を終えました。

〈戦災復興計画〉
昭和20(1945)年、米軍の爆撃により、四日市市は市街地面積の約9割に相当する110万坪が焼失となり、焼失した住居は1万戸以上のぼりましました。戦災からの復興を円滑に進めるため市では、県と協力して、戦災復興計画の立案にあたりました。復興計画の中心は、近鉄四日市駅を誘致し、近鉄四日市駅を拡張して、この2つの駅を幅70mの道路(中央通り)でつなぐ計画でした。この道路の両側は市役所などの官公庁、銀行など高層建築物の集まる商業用地として指定され、こうして今日の四日市の中心部が形づくられていきました。

四日市旧港のまちの成り立ち

江戸 1713 四日市市街測量歴地図



〈江戸時代の四日市〉
元禄元年(1688~1704)に湊がこの地の東海岸に移ったことにより、急速に発展し多くの廻船問屋・干鰯商・漁民の納屋や蔵が軒を連ねる町になったといわれます。当時のメインストリートは、「浜往還」と呼ばれる東海道と湊を繋ぐ道で、湊町の中心だった浜町もその通りにありました。江戸時代終わり頃から明治の初めにかけて、四日市港は伊勢湾における最大の商業港として大変賑わいました。

明治 1911 四日市市街測量歴地図



〈明治時代の四日市〉
明治32年(1899)、四日市港は開港場に指定され、国際貿易港としてスタートしました。鉄道も開通したことからまちの中心は、より駅に近い本町商店街へ移り、商店街としての賑わいを見せていました。また、講和記念博覧会が催され、大変な賑わいでした。太平洋戦争激化に伴い四日市港も軍需工場への転換を強いられ、その結果1945年6月18日に大空襲を受けました。

現代 2007 四日市地区空中写真



〈現代の四日市〉
国道23号線が開通したことで、現在の四日市は23号線を境に東西に分断され、まちの中心は近鉄四日市駅周辺へと移りました。第2ふ頭、第3ふ頭をはじめ埋立て地がさらに増え、工業港としてより大きくなりました。また、納屋遺河の大半も埋められ現在は、納屋防災緑地となっています。

昭和 1954 戦前四日市市街測量歴地図



〈戦後の四日市〉
終戦後、疎勤新道の拡幅工事等の計画的な街路整備が急ピッチで行われた結果、浜往環や南浜往環といった歴史的な通りは一部廃棄しては、復興も急激に進み、平和産業として生まれ変わりました。この時期に潮吹き防波堤の背後が新たにコンピナートとして埋め立てられ、防波堤としての役割を終えました。

〈戦災復興計画〉
昭和20(1945)年、米軍の爆撃により、四日市市は市街地面積の約9割に相当する110万坪が焼失となり、焼失した住居は1万戸以上のぼりましました。戦災からの復興を円滑に進めるため市では、県と協力して、戦災復興計画の立案にあたりました。復興計画の中心は、近鉄四日市駅を誘致し、近鉄四日市駅を拡張して、この2つの駅を幅70mの道路(中央通り)でつなぐ計画でした。この道路の両側は市役所などの官公庁、銀行など高層建築物の集まる商業用地として指定され、こうして今日の四日市の中心部が形づくられていきました。

図：四日市旧港まち歩きマップ(通年版) その4

(2) 秋のみなとフェスタ2010の概要

主催：四日市港まちあるき実行委員会

日時：平成22年10月3日（日）8:30～16:00

メイン会場：なやプラザ・千歳棧橋

来場者数：1200名

主なプログラム：

① オープニング「本気のラジオ体操」

市民団体による「本気のラジオ体操」で準備運動をした。「本気のラジオ体操」の後、参加者で散策コースのゴミ拾いを実施した。

② 講演会・報告会

映画監督 瀬木直貴氏の講演会とワークショップの成果報告会を開催した。

③ 港の展示会

市立博物館協力による港の歴史展示、三重大生による卒業・修士設計の展示、ワークショップの取り組みを紹介したパネル展示をした。

④ ガイドツアー

語り部による散策ガイドツアーを実施した。

⑤ ウォークラリー

散策コース内各所に設置した地域資源に関するクイズに答えると景品がもらえるウォークラリーを実施した。

⑥ フードコート

拠点会場に飲食ブースを設置した。国の登録有形文化財に指定された浜松茂ではイベント特別企画のお茶会を開催した。

⑦ 作業船見学会

タグボート「ちとせ丸」や海上保安庁消防船「しゅうりゅう」など、港で働く船の見学会を実施した。

⑧ 体験クルーズ

港内巡視船かもめで四日市港を1周し、普段見ることのできない海上から港を見学した。

⑨ まち歩きマップの配布

JR四日市駅、近鉄四日市駅でまち歩きマップを配布した。

⑩ レンタサイクル

JR四日市駅、近鉄四日市駅でレンタサイクルのサービスを実施した。

⑪ 臨時駐車場



写真：オープニングの風景



写真：講演会・報告会の風景



写真：ガイドツアーの風景



写真：体験クルーズの風景

WSで提案されたアイデアをもとに企業の駐車場を臨時駐車場として活用した。

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
全体	マップ配布(駅・なやプラザ等)									
	スタッフ配置									
なやプラザ	レンタサイクル									
	オープニング									
	講演会・報告会									
	WS・港歴史展示									
	ガイドツアー									
散策コース	ウォークラリー マップ配布									
	潮次巻防波堤飲食ブース									
干瀬	作業船内観見学									
	巡視船「かもめ」体験クルーズ									

図：みなとフェスタ・タイムスケジュール

10.3 MINATO FESTA
秋のみなとフェスタ2010 秋の四日市祭 同日開催
～四日市旧港再発見～
2010年10月3日(日) 午前8:30～午後4:00
メイン会場 ★なやプラザ ★千歳棧橋

オープニング
[I LOVE 地元] 近藤隆洋さんによる「本気のラジオ体操」
場所：★なやプラザ 時間：8:30～9:30

講演会・成果報告会
四日市出身の地産地消、地元漁民さんの講演会 観られる着づくりのためのワークショップの成果報告会
場所：★なやプラザ体育館 時間：10:00～11:30

港巡りウォークラリー
散策マップを手に名所を巡りクイズに答えて景品をGETしよう
マップ配布場所：★なやプラザ、★千歳棧橋、★潮次巻防波堤
配布時間：9:00～16:00

散策ガイドツアー
所要時間90分 所要定員50名 参加費無料
散策マップを手に名所を巡りクイズに答えて景品をGETしよう
場所：★なやプラザより順次出発 時間：12:00集合 14:00出発

巡視船「かもめ」体験クルーズ
所要時間60分 所要定員30名 参加費無料
四日市港を海から見よう
場所：★千歳棧橋より出発 時間：12:00出発 14:00出発

港ではたらく船の見学会
タガボート「とせ丸」、潮船「しほりゅう」の内見を見よう
場所：★千歳棧橋 時間：13:00～16:00 (受付は15:30まで)

※「散策ガイドツアー」と「巡視船「かもめ」体験クルーズ」は、事前申し込みが必要です。

オープンカフェ
場所：★稲葉翁記念公園脇のプロムナード 時間：10:00～16:00

フードコート
場所：★なやプラザ 時間：11:00～16:00

港に関する展示
[展示・WSの取組・三重大学卒業設計・博士設計]
場所：★なやプラザ体育館 時間：9:00～16:00 協力：四日市博物館
レンタサイクル(有料)
場所：★近鉄四日市駅、★JR四日市駅 時間：8:00～16:00

お茶会 @ 浜松茂
場所：浜松茂 料金：500円(お茶+菓子) 時間：13:00～16:00

四日市港まちあるき実行委員会
www.p.arch.mie-u.ac.jp/yokkaichi-port
緊急連絡先:080-3759-7817

図：みなとフェスタ・チラシ

なやプラザ
・オープニング (8:30-9:30)
・講演会・成果報告会 (10:00-11:30)
・港巡りウォークラリー (9:00-16:00)
・散策ガイドツアー (12:00、14:00-16:00)
・フードコート (11:00-16:00)
・港に関する展示 (9:00-16:00)

1 ガイドツアーコース
2 バリアフリーコース
3 稲葉翁を巡るコース

凡例
● 歴史的資源
● 文化的資源
● 産業的資源
● 自然的資源
★ 重要な資源 (色は資源の色に準じる)
⛩ 神社
⛩ 寺院

臨時駐車場
P 山車収蔵庫
W.C
市営駐車場
歩道橋
国道
交差点名

JR線
浜往還
南浜往還
運河跡【推測】
公共施設・学校
公園・緑地

0 100m 300m

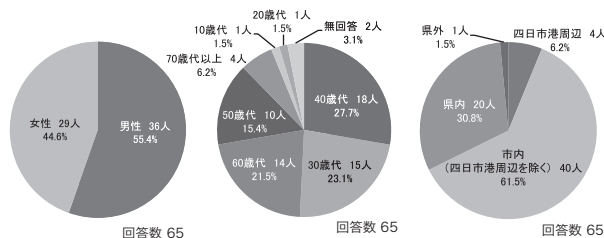
図：みなとフェスタ・イベントマップ

(3) 参加者アンケート調査結果の概要

2010年10月に実施された「秋のみなとフェスタ2010～四日市旧港再発見～」において、取り組み内容に対して、効果の測定や課題を把握するために、一般参加者を対象にアンケート調査を行った。

1) 調査の概要、回答者の属性

- ①対象：「秋のみなとフェスタ2010～四日市旧港再発見～」の一般参加者
- ②時期：2010年10月3日（日）
- ③回答者数：65人
- ④性別：男性（36人）、女性（29人）
- ⑤年齢：～40歳代（35人）、50歳代～（28人）、無回答（2人）
- ⑥住まい：四日市港周辺（4人）、四日市市内（40人）、三重県内（20人）、三重県外（1人）



図：回答者の属性

2) イベント参加者の傾向

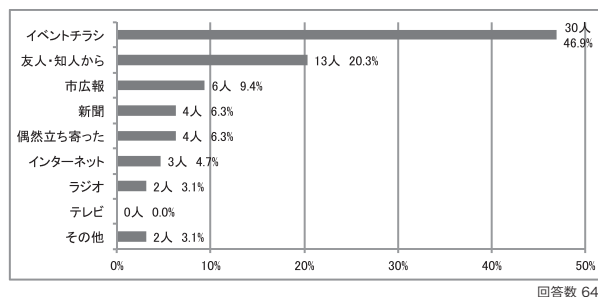
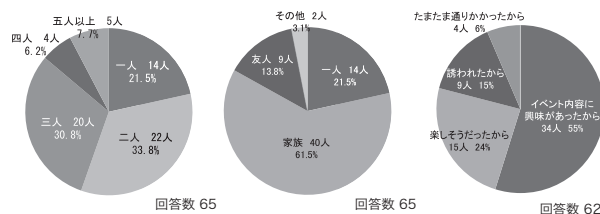
①回答者の構成

回答者の約34%で「2人」、31%で「3人」と2～3人でイベントに参加している割合が高く、回答者の半数以上の約62%が家族でイベントに参加していることがわかる。

②イベントに訪れたきっかけ

みなとフェスタをイベントチラシで知った人が全体の約47%を占めました。次いで「友人・知人から」（約20%）、「市広報」（約9%）となった。

実際に参加した理由として、「イベント内容に興味があったから」（約55%）最も高い結果となった。

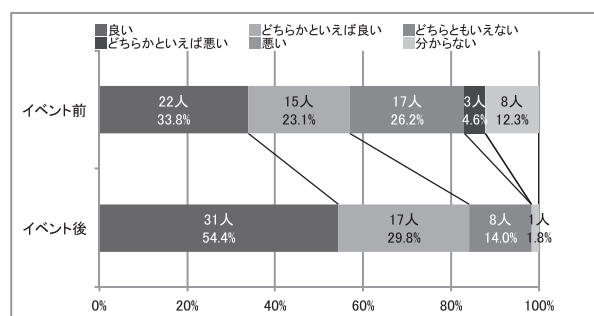


図：参加者の傾向

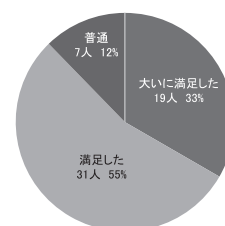
3) イベント参加者の評価

①四日市旧港に対する印象

四日市旧港に対して、参加者のイベント前に持っていた印象とイベントを終えてからの印象を比較した。その結果、「良い」「どちらかといえば良い」と回答している人がイベント前（約57%）に比べて、イベント後（約84%）の方が多くなっていることがわかる。イベントが四日市旧港の印象を向上させる効



図：四日市旧港に対する印象



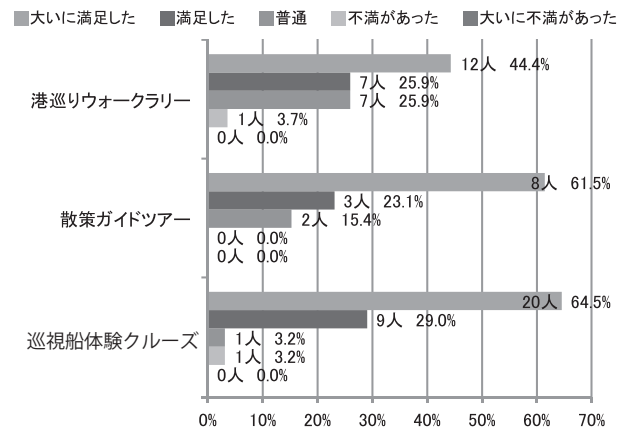
図：イベント全体の感想

果があったといえる。

②みなとフェスタの感想・評価

イベントの全体の感想について、約88%の回答者が「大いに満足した」「満足した」と回答しており、イベントの評価が高いことがわかる。

また、今回の主要イベントであった、「巡視船体験クルーズ」「散策ガイドツアー」は全体の80%以上の回答者に満足されており、「港巡りウォークラリー」に関しても、全体の70%以上の参加者が満足していることがわかる。

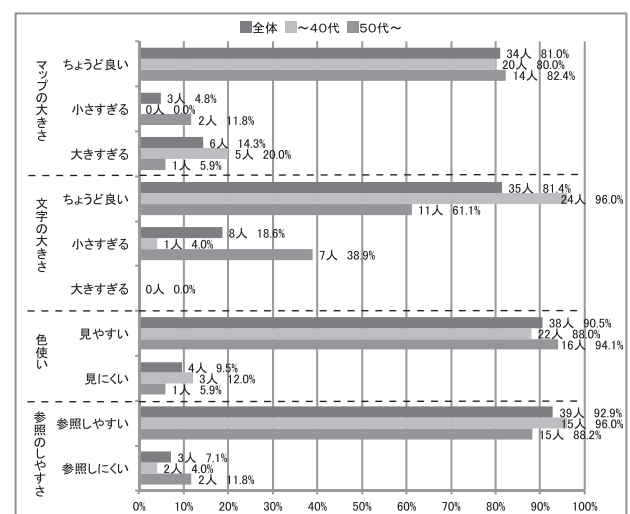


図：イベントの評価

4) 散策マップの評価

2010年度に作成した散策マップについて、マップの大きさ・文字の大きさ・色使い・地域資源の参照のしやすさの観点から評価をして頂いた。マップの大きさ、文字の大きさ、色使い、地域資源の参照のしやすさ全ての項目に関して80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答している。

年齢別にみると、10～40歳代で「マップの大きさが大きすぎる」(約20%)、50歳代以上で「文字の大きさが小さすぎる」(約39%)と回答する割合が高いことがわかる。



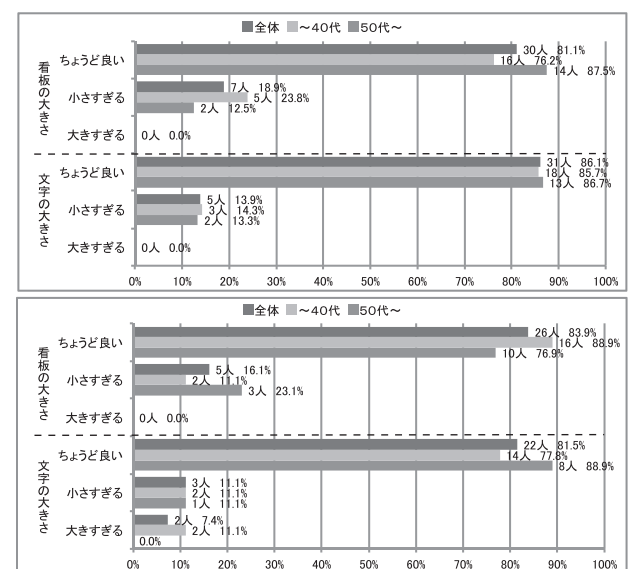
図：散策マップの評価

5) マップ看板・地域資源案内看板の評価

現在値を示すマップ看板と四日市旧港の地域資源を案内する地域資源案内看板について、看板の大きさ・文字の大きさの観点から評価をして頂いた。

マップ看板に関しては看板の大きさ、文字の大きさともに80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答しているが、一部の参加者は看板・文字が小さすぎると回答している。

地域資源案内看板に関しては、マップ看板同様、看板の大きさ、文字の大きさともに80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答しているが、年齢別にみると、10～40歳代で「文字が大きすぎる」と感じている人もいることがわかる。



図：マップ看板 (上)・地域資源案内看板 (下) の評価

6) 四日市旧港の魅力を高める施策

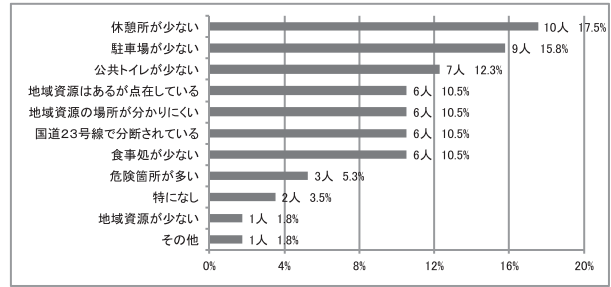
四日市旧港を散策する上での問題点を2つまで選択してもらった。その結果、「休憩所が少ない」(約18%)が最も多く、次いで「駐車場が少ない」(約16%)「公共トイレが少ない」(約12%)となった。このことから、散策するための環境づくりの重要性が伺える。

今後、四日市旧港の魅力を高める施策として効果的だと思われるものを3つまで選択してもらった。「6. 海や船を活用したイベントの実施」が約58%を占め最も高く、次いで、「10. 倉庫街を活用したカフェ・市場」(約44%)となった。この結果から、四日市港の魅力を高める上で、工業港という特徴を活かしたイベントを期待していることがわかる。

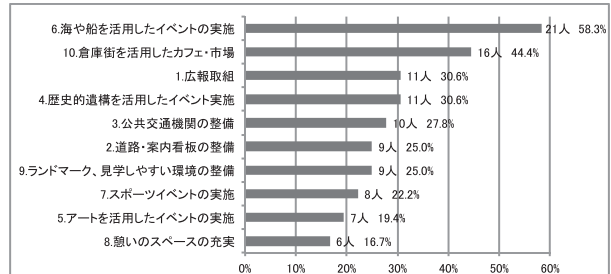
7) まとめ

「みなとフェスタ」参加者に対するアンケート調査の結果、イベントを通して四日市旧港への印象の向上につながったことが確認された。また、散策マップ・案内看板に関しては、全体的な評価は高いものの、文字の大きさ等、再検討する必要があることがわかった。

今後、親しまれる港づくりを目指すにあたって、四日市港を「知ってもらおう」ために広報を充実させ、「来てもらおう」ためにアクセスを整備し、「楽しんでもらおう」ためにイベントを開催するといった、一連の継続的な活動が求められる。そのためには、検証結果をもとにアイデアの微修正を行い、アイデアを実践するプロジェクトパートナーシップの仕組みを定常化させることが課題である。



図：散策する上での問題点



図：魅力を高める施策

(4) 秋のみなとフェスタ2010の検証

秋のみなとフェスタ2010では、「親しまれる四日市港づくりのための100のアイデア」から20あまりのアイデアを実践した。アイデアは、〈知ってもらう〉〈来てもらう〉〈楽しんでもらう〉の3つに大別されている。そこで、3分類それぞれの【効果と課題】について、秋のみなとフェスタ（社会実験）を通じて検証する。

1) 〈知ってもらう〉

【アイデア（抜粋）】

☆フィルムコミッションを立ち上げて四日市港旧港を舞台にしたドラマや映画を誘致する

☆中心市街地・霞・四日市旧港を総合的にPRする

☆四日市旧港のB級グルメをつくってPRする

☆市広報、テレビ、新聞、雑誌等のマスコミを利用して四日市旧港をPRする

☆駅や公共施設にイベント等の告知をする など

【効果と課題】

来場者アンケートの結果から、アイデアからの各企画はおおむね好評であった。映画監督の講演を行うことで、フィルムコミッションの意識付けとなった。また、作成した散策マップは鉄道駅・中心市街地から旧港地区を含んだコースを設定したことで、総合的なPRとなりうる。

イベントでは、語り部と歩くツアーやウォークラリーを開催することで、マップと合わせて、みなとを知ってもらうことについて大きな効果があると思われる。

一方、来場者アンケートで地域資源の認知度を調べた結果、潮吹防波堤がトップで66.7%となった。他についてはほとんどが半分以上の方が知らないという結果となった。少しでも港に興味があるから来場したのではと考えると、かなり認知度は低い結果であった。また、地域住民でも、国道23号より東にはなかなか行かないという方がいる。地元住民や周辺企業と一体となって取り組むことが必要となる。

現在、港の機能・港の見所・散策可能なエリア等について、一般に認知されていない状態である。秋のみなとフェスタでは、事前にチラシやマスコミ、市広報などで発信したが、認知度はかなり低かった。このことが来場者が少なかった要因の一つであると考えられる。

2) 〈来てもらう〉

【アイデア（抜粋）】

☆来街者用の駐車場を整備する

☆四日市旧港と霞を結ぶ遊覧船を運航する

☆JR四日市駅からレンタサイクルで四日市旧港を一周する

☆JR四日市駅に散策マップの看板を設置する

☆JR四日市駅から四日市旧港までの歩道沿いに歩行者用の案内看板を整備する など

【効果と課題】

遊覧船の企画については参加者に好評であった。また、案内用の看板についても、今後も恒久的に設置してほしいとの意見が多かった。

一方で旧港周辺へのアクセスになると、午前・午後数本ずつの路線バスがあるのみである。実質的に公共交通機関での来場は難しい状態である。自家用車での来場が現実的ではあるが、

見所周辺には駐車場がほとんどない。イベントでは企業の協力を得て臨時駐車場を用意したが、普段は来場者の受入が地域としてできていない。

また、イベントで実施したように、今後は自転車での来場を見込み、レンタサイクルとの連携や、自転車用のコースを設定することも必要である。ほかに、鉄道事業者の散策イベントと協力してイベントを開催するなど、来場者を増やす取組を進める必要がある。

旧港周辺の資源は点在しており、現在は案内看板も整備されているとはいいがたく、点在する各資源を効率的にまわれるように、旧港全体のマップ看板や各資源の案内看板の設置も検討していく必要がある。

3) <楽しんでもらう>

【アイデア（抜粋）】

☆語り部の案内で四日市旧港を歩く

☆指定史跡を巡るウォークラリーのイベントを開催する

☆時間、出発点、テーマによって多様なコースのある散策マップを制作する

☆海から四日市港を見る遊覧船ツアーを開催する

☆プロムナード沿いや船の見える場所にベンチやテーブルを設置する など

【効果と課題】

散策マップを持って、語り部の案内で歩くツアーやウォークラリーについては、イベントのメイン企画として開催し、好評を得た。また、海のイベントについても非日常の体験として喜ばれた。

イベントでは、ウォークラリーの看板や語り部の案内があり、参加者は港の見所を楽しんで見て歩いた。現在の旧港周辺には歴史的資源など見所が多くあるものの、資源が点在し個々の資源が繋がっていないため、地区全体として人が集まり、楽しんでもらう仕組み、たとえば語り部ツアーや案内看板設置の取組など、資源を効率的にまわれる仕組みが必要となる。

イベント時のアンケートでは、イベントを通して実際に歩き、歴史を知ること、旧港に対して抱くイメージが良くなったとの結果であった。現在ある資源を、散策マップを持って歩くだけで、十分に満足してもらえらるということである。散策会などの様々なイベントを実施することにより、より多くの来場者に港の魅力を体験してもらうことが可能である。

また、アンケートでは、特に船内見学やクルーズといった海に関するイベントの満足度が高いことから、今後旧港の魅力を発信するうえで、海に関するイベントは重要なツールとなり得る。

4) 総括

イベントを実施する際には、事前PRなどの集客策を今後はさらに積極的に行うとともに、個別のアイデアについても、今年度の課題を検討し、継続または変更していく必要がある。秋のフェスタ2010は20あまりのアイデアを実践したが、今後もアイデアを活かしていくことが大切である。

秋のみなとフェスタ2010は、親しまれる港づくりのために多様な主体が参画し、一体となって開催された。今後もイベントの開催を通じて、より一層様々な団体や人材を掘り起こし、協働の仕組みづくりをさらに進めることが大切である。

秋のみなとフェスタ2010は悪天候もあり、来場者数は伸び悩んだが、来場者アンケートによると、企画としてはおおむね好評であった。イベントを継続し、定着させていくことで、アイデアは活き、四日市港に興味を持つひとが増えると考えられる。

表：秋のみなとフェスタ2010各イベント別の検証

取組	概要	アイデアNO.	アンケート結果等	考察
イベント全体	○散策コース(ガイドツアー、ウォークラリー): 中心市街地～なやプラザ周辺～旧港～千歳 ○なやプラザ:ガイドツアー、ウォークラリー、 ラジオ体操、講演会・WS成果報告会、各種展示、 飲食ブース、マップ配布・案内所 ○稲葉翁記念公園:飲食ブース、マップ配布・ 案内所 ○JR・近鉄四日市駅:レンタサイクル拠点、 マップ配布・案内所 ○千歳:作業船見学、体験クルーズ、マップ配布・ 案内所 ○臨時駐車場:日本トランスシティ・伊勢湾倉庫・ 高砂建設(スタッフ用)の協力、マップ配布・ 案内所		・四日市港に対する印象は、イベント参加を通じて良くなった。 ・来場者数は1,200人、家族で来場する方が多かった。 ・来場者の満足度は高かった。(88%) ・事前PRが不足し、イベントの開催を知らない方が多かった。当日が雨模様であったこともあり、来場者が少なかった。また、秋の四日市まつりや橋健康フェスタと同日開催であったことも要因。 ・地元の方でもイベントの開催を知らない方がいた。	・来場者の満足度は高く、イベントの内容はよかったと思われる。 ・来場者数が少なかったのは、イベントの開催を知らない方が多かったためと思われる。事前PRを計画的に行い、発信力を高めることが必要である。また、開催日についても、検討が必要である。 ・アンケート調査では、もともと港に対する認知度は低く、まずは知ってもらう取組が重要となる。 ・地元に着した取組にする必要がある。
散策マップ	四日市旧港まちなきマップを作成。WSで検討した6つのモデルコースを設定し、歴史・産業・文化・自然の各資源の説明と場所をマップに表示。ほかに旧港の歴史を掲載。イベント当日、マップを持って各種イベントに参加できるように配布。	15、90	・散策マップを片手に港を歩きたいとの感想があった。 ・マップの大きさ、文字の大きさなど、全てで8割以上がちょうど良いと回答。ただ、文字の大きさが50代以上の4割が小さすぎるとしている。また、風が吹いたときには大きすぎてしまになるため、ブック型にしてほしいとの要望も。 ・グルメスポット情報を掲載してほしいとの意見がみられた。	・旧港周辺を歩いてもらうためのマップとして、つかえるものになった。飲食の情報があればよりよいマップとなる。 ・マップの携帯性や視認性については課題が残る。通年版マップは課題を解決したものにしておく。 ・通年版マップの設置場所や、活用方法についても検討が必要である。 ・マップをHPで見られるようにし、各家庭から情報が得られるようにすることが必要である。また、関係機関などへのリンクなど使いやすいものにするよう検討していく。
散策イベント	まちあるきマップから抽出した資源に、看板を設置。資源の説明とともに、クイズを設定。クイズの正答数によって景品を進呈。	2、35、91、93	・ウォークラリーは7割以上の方が、ガイドツアーは8割以上の方が満足と回答。 ・親切だった等、特にガイドの評価が高かった。 ・散策上の問題点としては、休憩所・駐車場・トイレが少ない、地域資源が点在し、場所がわかりにくい、食事処が少ないなどの意見が多かった。	・もっとも評価の高いイベントの一つとなった。特に親子連れなどの評価が高かった。 ・参加者数は少なかったものの、満足度は高かった。イベント前に知られていなかった資源についても、説明などがあるため、認知度が上がった。 ・少人数で回ったことが、満足度を上げた。 ・点する地域資源の魅力をどうつなげて発信するのかが、課題が残った。
ウォークラリー	事前に募集し、研修を行ったツアーガイドの案内でモデルコースのガイドツアーコースを回る。参加者についても事前チラシにて募集。	34		
ガイドツアー				
各種イベント	市民団体による「本気のラジオ体操」を来場者とともにに行い、その後散策コースのごみ拾いを行う。		・7割以上の方が満足と回答。	・今後とも、港と一緒に盛り上げてもらえるネットワークを作っていく取組が必要。
オープニング				
講演会・WS取組の成果報告	四日市出身の映画監督、瀬木直貴氏を招き、四日市港に関する講演を行う。平成21年～のWSの取組を松浦助教から発表。	4	・7割以上の方が満足と回答。	・映画監督の講演会を実施したことで、フィルムコミッションを立ち上げようというアイデアを考えていく一歩になった。 ・100のアイデアの検討は、一過性に終わらせずに今後も継続して取り組んでいく必要がある。
港に関する展示	なやプラザ体育館にて、WSの取組をパネル展示。博物館の協力により、四日市港の歴史をパネル展示。WSに携った三重大学の港をテーマにした卒業設計・修士設計を展示。	4、13	・全員が満足と回答。	・様々な主体と一緒にあって、今後も四日市港の情報を発信していく必要がある。
飲食ブース	なやプラザおよび稲葉翁記念公園にて、飲食物の販売を行う。テーブル・イスを設置し、飲食できるスペースを提供。ほかに、浜松茂ではお茶・菓子を提供。(ブースはとんてきソース、焼きそば、津ぎょうざなどを提供。)	61、80	・6割の方が満足と回答。 ・飲食ブースの数が少ないという意見があった。	・来場者が少なく、飲食した方は少なかった。特産品の飲食・販売など、地域に密着した取組を行うことが必要。
作業船内部見学	海上保安部の消防船「しゅうりゅう」と、四日市港管理組合の巡視船「ちとせ」の内部の見学を実施。	50	・8割以上の方が満足と回答。 ・普段見ることができない船内を見学できてよかったとの回答。	・船を活用したイベントは、散策とともに評価が高かった。普段見られない船内をみるという非日常性の演出がよかった。
かもめ体験クルーズ	四日市港管理組合の巡視船「かもめ」に乗船し、四日市港内を体験クルーズ。参加者は事前募集。	49	・9割以上の方が満足と回答。 ・乗船機会をもっと増やしてほしいとの回答。	・船を活用したイベントは評価が高い。港ならではの取組がよかった。
レンタサイクル	四日市市実施のレンタサイクル事業と連携。近鉄・JR四日市駅のレンタサイクル受付にてイベントのマップを配布し、駅周辺からの誘客を図った。	25	・認知不足もあり、利用者数は少なかった。	・散策マップの範囲は広く、自転車だと全て見て回ることができる。今後も自転車活用したまちあるき(サイクリング)を四日市市とともに進める必要がある。 ・レンタサイクルの受付でもイベントを案内できるようにするなど、相互に連携した取組を検討していく。
マップ看板・地域資源案内看板	・なやプラザや駅など案内所に散策マップと同様の、駅～千歳のマップを掲示。また、各地域資源の前に説明看板を設置。ウォークラリーのクイズをあわせて表示。	2、91	・看板の大きさや文字の大きさなど、全てで8割以上の方がちょうど良いと回答。各資源ごとの案内看板については、40代以下では文字が大きすぎるとの意見も。 ・看板の常設については、マップ看板のみが3割、資源看板のみが2割、両看板ともにかが5割以上の方が、常設すべきと回答。あわせると、7割以上の方が両看板を常設すべきと回答し、特にマップ看板について要望が多い。	・散策マップ看板の設置は8割以上が望んでいる。また、各資源ごとの案内看板も7割以上の方が望んでいる。現在ではPRが不足し、資源を知らないひとが多いため、看板の設置は重要である。 ・中心市街地～港を一体的に、看板やマップなどでPRしていく必要がある。
事前PR	・イベント事前PRチラシを作成し、市内の公共施設・港地区自治会・近鉄各駅・JR四日市駅にて配布。 ・各種マスコミにイベント開催についての記者発表。 ・市広報・HP・FMよっかいち情報誌にてイベント開催を告知。	4、7	・半数近い方が、事前PRチラシでイベント開催を知ったと回答。また、口コミで知った方も多く見られた。	・PRチラシは鉄道事業者などの協力で配布することができたが、期間が短く、周知不足であった。マスコミへの情報提供などとともに、計画的な発信が必要である。 ・各家庭にもっとPRをしていく必要があり、HPでの案内や、自治会回覧などでのPRを検討していく。
マップ配布・案内	・近鉄・JR四日市駅に案内所を設置し、市街地からの誘客および散策マップを配布。 ・駐車場やイベント各所にてマップの配布と、イベントの案内。	2、15	・駅のブースでは、散策マップを持っていく方は多かったが、イベントの開催を知らない方が多かった。	・公共交通機関から旧港へ案内する取組が必要である。
臨時駐車場	・日本トランスシティ・伊勢湾倉庫・高砂建設(スタッフ用)の協力を得て、従業員用駐車場を当日臨時駐車場として利用。	19	・当日の悪天候もあり、利用者は少なかった。	・旧港周辺に来場者が利用できる駐車場がほとんどない。来場者の利便のため、今後も駐車場については検討していく。
警備	・散策コースの安全対策として、動員者で沿道警備を行い、交差点は警備会社に委託を行った。(事前に南警察署に誘導員など警備体制について説明し、了解を得た。)		・来場者が少なかったため警備担当者が不要であったポイントが多いとの声があった。	・来場者が多い場合は、周辺は幹線道路やトラックの通る道が多いため、必要である。ボランティアでの参加を呼びかけていく必要がある。
その他(イベント以外)	・みなと講座は、港に関心のある県民・市民の方々にもっと広く四日市港を知っていただくことを目的として平成20年度にスタートした。受講者を語り部として養成するための前ステップとしての役割も果たしてきた。	37		・四日市港をより知ってもらうとともに、発信する担い手の育成を目的としており、イベントでのツアーガイドの方も講座受講生が多い。 ・今後も継続することで、四日市港をより身近に感じてもらう。
四日市みなと講座				
四日市港HP	・客船などの入港船情報やイベントの告知など、四日市港の情報を発信するHPを管理組合が管理している。	14、16		・WSで、HPを作成するアイデアが出たおと、その認知度は低く、より興味をひくコンテンツが必要か。

4. ホームページの制作・管理

2009年度、2010年度の活動内容を紹介するホームページ（<http://www.p.arch.mie-u.ac.jp/yokkaichi-port/>）を製作・管理した。ホームページの構成は、1）ワークショップの概要、2）メンバー、3）2009年度の成果、4）2010年度スケジュール、5）2010年度WSの結果、6）テレビ・新聞記事等、7）秋のみなとフェスタ2010、8）リンク、となっている。

2010年6月15日にホームページを公開し、ワークショップやイベント開催に合わせて随時、更新を続けている。



図：四日市港 WS の HP

四日市港管理組合・三重大学都市計画研究室共同研究
親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ 2010
親しまれる港づくりの推進事業
報告書（概要版）

2011年3月31日発行

編集・製作 三重大学大学院工学研究科建築学専攻 都市計画研究室
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL：059-231-9477（直通）

製 本 合資会社 黒川印刷
〒514-0008 三重県津市上浜町2-11
TEL：059-226-4877

